



ひょうご農業法人 GUIDE BOOK VOL.2



私たち、農業でやりがいを見つけました!

兵庫県農業経営法人化推進協議会



家業から企業へ、農業の新しいカタチ

企業として農業を営む、農業法人。

家業として受け継がれてきた農業を法人化したり、新規就農者が法人を立ち上げて就農したりと、

さまざまなケースでの農業法人が誕生しています。

企業経営の中で、経営方法や働き方などが大幅に見直され、若者の就職の場としても注目されています。

第一弾に続き、この冊子では兵庫県内で奮闘している農業法人の一部を紹介します。

CONTENTS

摂津

- | | | |
|--------------------------------|------|---|
| 神戸市西区 株式会社 近藤農産 | 土地利用 | 3 |
| 神戸市西区 中野ファーム 株式会社リアルエステート中野 .. | 野菜 | 4 |
| 神戸市長田区 特定非営利活動法人 わだち | 野菜 | 5 |
| 宝塚市 株式会社 王珠 | 野菜 | 6 |



播磨

- | | | |
|----------------------------|------|----|
| 加古川市 農事組合法人 八幡宮農組合 | 土地利用 | 7 |
| 加西市 株式会社 中塚農園 | 土地利用 | 8 |
| 加東市 株式会社 こうせつ・たなか | 土地利用 | 9 |
| 姫路市 株式会社 香寺ハーブ・ガーデン | 工芸産物 | 10 |
| 姫路市 児島園芸有限会社 | 野菜 | 11 |
| 姫路市 有限会社 村上ポートリー | 畜産 | 12 |
| 神崎郡市川町 有限会社 環境微生物研究所 | 土地利用 | 13 |
| 赤穂市 株式会社 デイリーエッグ | 畜産 | 14 |
| 赤穂市 有限会社 米口グリーンナーセリー | 花き | 15 |



相生市 株式会社 百姓	土地利用	16
佐用郡佐用町 東徳久地区農事組合法人	土地利用	17
佐用郡佐用町 株式会社 みかづきe	土地利用	18
佐用郡佐用町 株式会社 山本宮農	土地利用	19
たつの市 株式会社 ささ宮農	野菜	20
たつの市 株式会社 J McCoy	土地利用	21
たつの市 有限会社 新宮ファーム	畜産	22
たつの市 株式会社 博農	野菜	23
宍粟市 一般財団法人 宍粟北みどり農林公社	土地利用	24

但馬

美方郡香美町 株式会社 上田畜産	畜産	25
美方郡新温泉町 株式会社 湯村温泉愛宕山観光	土地利用	26

丹波

丹波市 有限会社 井寄牧場	畜産	27
丹波市 神戸高見牛牧場株式会社	畜産	28
丹波市 有限会社 こやま園	なた豆	29
丹波市 株式会社 竹岡農園	野菜	30
丹波市 有限会社 たまごの郷	畜産	31
丹波市 株式会社 パブリック・キッチン	野菜	32
丹波市 有限会社 まるきん農林	土地利用	33
丹波市 有限会社 ワタミファーム 丹波農場	野菜	34
丹波篠山市 株式会社 アグリヘルシーファーム	土地利用	35
丹波篠山市 株式会社 丹波篠山大内農場	土地利用	36

淡路

洲本市 小山田村農場 株式会社チューリップハウス農園	複合	37
----------------------------	----	----





神戸市西区

株式会社 近藤農産



私たちの思い

自然環境に配慮した農産物を生産し「食の安全・安心」を皆様に提供します。また「安定」して生産物をずっと供給し続けることが社会貢献につながると考えています。

私たちのこだわり

環境保全型農業を目指し①地力増進②化学肥料低減③農薬残留検査の実施④色彩選別機による異物除去⑤米トレーサビリティ法による情報公開⑥品質分析技術の導入に取り組んでいます。

おもな作物

コシヒカリ(特別栽培米) 3.4ha、キヌヒカリ 4.5ha、ヒノヒカリ21.3ha、もち米0.8ha、合わせて150tを個人消費者、スーパー、事業所食堂、米穀集荷業者等へ出荷しています。



地球にやさしい環境保全型農業 安全安心な栽培米を笑顔と共に提供

「株式会社 近藤農産」は、神戸市の農業振興地である神出町で、100年前から農業を営んでいます。現在は、水稻30haの生産販売と約200haの作業受託、そして水稻苗250haを提供しています。近藤良典代表は、温暖化防止への意識が高く、2011年環境保全型農業によるコシヒカリの作付けを開始。その方法は社員食堂や病院、レストラン、スーパーから排出された生ごみを堆肥化し、その堆肥を施した豊かなほ場で水稻を栽培し、収穫した米をスーパー等に納品するという循環で、環境にやさしい農業に取り組んでいます。エコファーマー、ひょうご安心ブランドにも認定され、「株式会社 近藤農産」を応援する企業や消費者は増える一方です。

外観



働く人の INTERVIEW



中村 弘孝さん(49歳)

大学時代にアルバイトをさせてもらい、家庭的な雰囲気を感じ入社しました。2018年米の等級を決める農産物検査員の資格を取得。より安全でおいしいお米を提供します。



平田 新二さん(28歳)

当社でのアルバイトを経て2016年正社員へ。主に精米を担当しています。食味を上げるため、種類によって糠層を除去する厚みを変えています。人間関係が良好で楽しく働いています。

INTERVIEW OF TOP



農業の魅力を発信してくれる 人材を求めています

株式会社 近藤農産 代表取締役 近藤 良典さん

作業受託による水田耕作面積の増加により、経営規模拡大を図っています。栽培はもちろんですが、ITシステムを担当できる人材を求めています。仕事を任せるのが我社流。福利厚生を整えて待っています。

所在地 〒651-2321
神戸市西区神出町宝勢1354
電話 078-964-3453
FAX 078-965-0434
事業内容 水稻栽培、米穀販売、
農作業受託、ライセンスター
設立 2006年
資本金 1000万円
売上高 9100万円
従業員数 2名、
アルバイト3名
関連会社委託業務3名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



神戸市西区

中野ファーム 株式会社リアルエステート中野



私たちの思い

消費者に安全・安心なものをお届けするのは当たり前。当社では「新鮮なもの」を、年間を通じて「安定して」提供することを心がけています。

私たちのこだわり

最新技術は積極的に取り入れ、社員にどんどん技術を磨いてもらっています。若手が中心にがんばる明るい職場から「良い作物」が生まれるものと信じています。

おもな作物

トマト(約40t)と青ねぎは通年栽培。ほかに季節野菜(きゅうり、なす、ほうれんそうなど)、食用米約7tを主にスーパーや野菜直売所、JAに出荷。



環境制御型ハウスと利便性の高い立地を生かし付加価値のある野菜を安定供給

神戸市営地下鉄名谷駅から北へ約3km。交通の利便性が高い山あいには「中野ファーム」があります。当初3棟からはじまったトマト栽培用ビニールハウスは現在では20棟規模に。環境制御型コンピューターを導入し高床式の養液土耕栽培でトマトを生産しています。同社がある布施畑地区のほか、神戸市西区「平野」や「前開」地区では遊休農地を預かり、食用米や季節野菜を栽培。都心に近いので物流の便が良く、「新鮮」という付加価値がある中野ファームの「太山寺トマト」は、地域の消費者の人気ブランドに育っています。

外観



働く人の

INTERVIEW



荒木 貴登さん(22歳)

大学では公務員を目指していましたが、農業に興味があって2018年に兵庫楽農生活センター「就農コース」で研修を受けました。ここで農業の基礎を学んで2019年8月入社。農業のおもしろさは、日々新しい発見があって、施肥やかん水、収量の

増やし方、選別など作物に関わるさまざまな仕事に取り組めることです。休暇制度や福利厚生がしっかりしているのでとても働きやすいです。面倒見のよい専務からいつも元気をもらっています。

INTERVIEW OF TOP



若手が中心となる職場づくりを目指しています 技術を磨いて将来を担ってほしい

株式会社リアルエステート中野 専務取締役 中野 邦彦さん

私自身も異業種から農業経営に転じた一人なので、農業の苦勞も喜びも身をもって体験してきました。いい商品はいいい職場環境から生まれると考えています。若手にはどんどん技術を磨いて当社の将来を担ってほしいと思います。体験実習生も歓迎します。

所在地	〒651-2101 神戸市西区伊川谷町布施畑578
電話	078-940-9127
FAX	078-940-9128
事業内容	野菜・米の生産・販売
設立	2005年
資本金	100万円
売上高	3000万円
従業員数	2名、 パート6名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



神戸市長田区

特定非営利活動法人 わだち



私たちの思い

いちご栽培は当たり前のことを当たり前に
行い、いいものをつくり続ければお客様はついで
てくれます。「いちごの産地、伊川谷にあり」
と言われるようにがんばっています。

私たちのこだわり

ビニールハウス内に、いちご高設栽培シス
テムを導入。水やりや施肥を機械で自動化し、
立ったまま作業できるので就労支援事業で参
加する人たちの身体負担を軽減しています。

おもな作物

「出荷者／わだちファーム」で、「章姫(あきひ
め)」「おいCベリー」などのいちごを年間約13t
生産。ホームセンターや野菜直売店へ出荷す
るほか、直売所ではジャム加工して販売も行っ
ています。



農

業が人間にもたらす療育効果に着目

福祉と農業で障がい者を幅広くサポートしています

「NPO法人わだち」は、「障がいを持つ子どもたちに安心して過ごせる場を提供し、将来的
自立へ向けた療育を行うことで充実した生活を送ってほしい」という思いから2007年に設
立。福祉でできることの可能性を広げるため、農業に取り組む福祉事業所がまだほとんどな
かった2013年、太山寺周辺(神戸市西区伊川谷町)でいちごのハウス栽培をスタートさせま
した。同ハウスでは就労支援を目的に障がいを持つ児童も短期で農作業を体験。保護者から
は「気持ちや行動が穏やかになりました」など、「農業セラピー」の効果が生まれています。

外観



働く人の

INTERVIEW



長田 健一さん(52歳)

大手スーパーや神戸市中央卸売市場で販売や「せり」
の仕事に従事し、2019年入社。農業の現場が好きで、営
農組合の農作業手伝いをしたこともあります。「わだち」
の活動方針に賛同し、お客様の笑顔を励みにがんばって
います。



安富 瑤子さん(56歳)

いちごが大好きで、いちご農家をしている友人から勧
められ2016年にパートとして入社しました。いちご栽培
は、苗の育成など収穫に至るまで1年を通じてさまざまな
仕事がありますが、そのすべてにおいて楽しく取り組ん
でいます。

INTERVIEW OF TOP



障がいの有無にかかわらず、農業を通じて
その人が輝いて過ごせる場を提供したい

特定非営利活動法人 わだち 理事長 光武 茂さん

仕事は楽しくないと続かないものです。スタッフが楽しく仕事する
ことで福祉のサービスを受ける人たちにも笑顔が生まれます。いちごは
子どもも目を輝かせて食べてくれます。「伊川谷のいちご」を大きく育てていくために、私たちと一緒に取り組ん
でいきましょう。

所在地 〒653-0013
神戸市長田区一番町5丁目1-1
グランメゾンMIKURA1階B号室
電話 078-579-8310
FAX 078-579-8311
HP <http://npo-wadati.jp/>
事業内容 福祉事業(児童デイサービス・在宅支援など)、
いちご栽培(就労継続支援B型事業)
設立 2007年
売上高 1300万円(いちご出荷売上)
従業員数 3名、パート3名(いずれも
就労継続支援B型事業部門)

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



宝塚市

株式会社 王珠



私たちの思い

土づくりと鮮度にこだわり、新鮮な野菜を収穫して、新鮮なうちに消費者に届けたいと思っています。

私たちのこだわり

健康な土づくりをしっかりとしていきたい。化学農薬は極力使用せず、有機肥料を主体にした微生物農法で、味がしっかりとした野菜づくりを行っています。

おもな作物

トマト、きゅうり、なすの果菜類を中心に、葉物類、根菜類など、多種多様な野菜を栽培しています。



土

づくりをしっかりとて継続できる農業 都市近郊の強みを生かした野菜づくり

宝塚市の北部、西谷地区で野菜づくりを行う「王珠」。代表取締役・中西健二さんと瞳さん夫妻が、2009年にこの地に移住し、同年法人化。永続的に野菜づくりができるようにと、有機肥料を主体にした健康な土づくりにこだわります。

西谷地区に点在する畑180aと14棟のハウスで、果菜類を中心に葉物類、根菜類と多種多様な野菜を栽培。「一果入魂」をモットーに、こだわり農法に加え、昼夜の温度差が激しい気候を生かして、味の濃い野菜をつくります。都市近郊の立地を強みに、直売所や近隣スーパーの店頭で24時間以内に並ぶよう出荷し、新鮮なうちに消費者に届けます。



外観



働く人の

INTERVIEW



中西 瞳さん(36歳)

実家が養父市大屋町で造園業を営んでおり、東京農業大学で造園を学びました。結婚後、2009年から西谷で就農しました。出荷調整、管理作業、事務などが主な仕事です。造園も農業も自然の生物が相手。好きな生物に関わることが楽しいです。

夫がやりたいことを一緒に楽しくやっていきたいと思っています。2人の娘(10歳、6歳)には田植えや稲刈りなど農業体験をさせ、通園・通学の途中には動物や花の名前を教えます。自然の中で仕事や子育てができるのはすばらしいです。

INTERVIEW OF TOP



後継者の育成・指導・援助にも尽力 宝塚市新規就農者確保事業の技術指導も

株式会社 王珠 代表取締役 中西 健二さん

実家は阪神間で農家を営んでいます。農業者大学を卒業後就農しました。子育てしながら農業ができる環境づくりが大切で、若手農業者を増やすことは、地域活性化につながる。地域での青年農業者との活動を活発にし、後継者の育成・指導・援助にも力を尽くしたいと思っています。2019年の宝塚市新規就農者確保事業で就農者に対して、技術指導を行っています。

所在地 〒669-1211
宝塚市大原野字塩ヶ平8-1
電話・FAX 0797-91-0910
HP <http://nakanishi-ouju.com>
事業内容 野菜の生産・販売
設立 2009年
資本金 1000万円
売上高 2000万円
従業員数 1名、パート6名



インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



加古川市

農事組合法人 八幡宮農組合



私たちの思い

農業と6次産業で地域女性や高齢者の雇用を生み出し、また直売所に消費者を呼び込むことで、地域の活性化を目指しています。さらに地域農業の持続的発展に貢献します。

私たちのこだわり

地産地消、安全安心を推進するため、加工品はふぁ～みんSHOP八幡の併設店「風雅亭」で製造直売しています。また農商工連携による新商品開発や販路拡大に取り組んでいます。

おもな作物

米は年間190tを生産し、JAと弁当等に加工し直売所で販売。麦は30ha作付けしたものを日本製粉へ。大豆は22tを豆腐会社に加工委託。そば2tは加工して直売所へ。



外観



「加古川パスタ」などヒット商品を 続出する八幡町の農地担い手集団

東播磨南北道路「八幡稲美IC」から車で5分、ふぁ～みんSHOP八幡の隣に「農事組合法人八幡宮農組合」があります。2005年、八幡地区6集落の全農家642戸が参加する同組合を設立。営農面積は年々増加し現在は110ha。米、麦、大豆、そばを生産しています。また、設立当初から農産物に付加価値をつける6次産業に着目し、八幡厄神そばや米粉シフォンケーキ、八幡ロール、総菜パンなど、ヒット商品を次々開発。今人気を集めているのは、兵庫県産デュラム小麦「セトデュール」を100%使用した純国産の「加古川パスタ」です。農業と6次産業による両輪稼働の黒字経営は企業や大学などの異業種からも注目を集めています。

働く人の

INTERVIEW



中部 敏弘さん(50歳)

市や普及センターで情報収集し2015年入職。年間作付計画やさまざまな現場作業を担当しています。害虫による病気を防止するとともに、肥料を効率良く作物に行き渡らせるため雑草の除去を工夫しています。作物の収穫量をもっと増やし、加古川パスタを超える新ブランドを開発していきたいです。

所在地 〒675-1206
加古川市八幡町船町16
電話 079-438-3950
FAX 079-438-3952
HP <https://yahataeinoukumiai.com/>
事業内容 米、麦、大豆、そばの生産、加工販売業
設立 2005年
資本金 942万円
売上高 1億4000万円
従業員数 8名、パート16名

インターネット
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



INTERVIEW OF TOP



早くから6次産業に着手し 「儲かる農業」を実践

農事組合法人 八幡宮農組合 代表理事 芦原 安男さん

農林水産省が6次産業化を推進し始めたのが2007年です。その2年前から当法人では「自分たちが生産した農作物には自分たちで値段を付けて売っていきたい」という強い意志のもと6次産業を手掛けてきました。その甲斐あって順調に収益を上げることができています。今後も土地改良により営農面積はますます増加する予定です。国際基準のGAPIにも挑戦していきたいですね。



農業は生きる原点。農地を保全し、より良い形で次世代へ

加西市

株式会社 中塚農園



私たちの思い

「地域のためにできること」を一番考えています。山田町の貴重な財産でもある農地を有効活用しながら、美しい田畑の状態を未来へ引き継ぐことが重大な責務と感じています。

私たちのこだわり

スマートアシストを導入しています。ほ場の生育状態をドローンで空撮し、データを解析。生育が遅れている箇所にはラジコンヘリで肥料を散布。効率的に優良な作物を生産します。

おもな作物

酒米山田錦を年間80t、コシヒカリ、きぬむすめ、ヒノヒカリ、あきだわらの食用米が年間20t、黒大豆は年間1tをJAへ出荷、アスパラガスは年間2tをJAと直売所へ。



担

い手農園と地域住民がお互いの協力
風光明媚な農村風景を未来へつなぐ

加西市山田町の丘陵地には緑豊かな農地が広がっています。この田畑を手掛けるのが「株式会社 中塚農園」です。水稻20ha、黒大豆3.6ha、アスパラガスはハウス1棟4aを栽培しています。「地域の農地を守り、保全し、次世代へ渡す」をモットーとする中塚良行代表が農業をはじめたのは2004年。後継者不在に悩んでいた山田町の住民たちは、中塚代表の考え方に賛同し、農地を託すにあたって、作業場(写真左)の土地を探したり、水管理を受け持つなど、地域の受け入れ体制を整えてくれました。中塚代表は、山田町の人々の想いをしっかり受け止め、地域農業が持続的に引き継がれるように、経営規模の拡大、従業員数の増加を目指しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



西山 智大さん(24歳)

2015年兵庫県立農業大学校を卒業し当社へ入社しました。水稻を担当しています。環境変化による肥料や水の調整など、代表から細やかな指導があり、しっかり学ばせてもらっています。



桑村 紗也加さん(22歳)

兵庫県立氷上高等学校農業科から兵庫県立農業大学校へ進学、2016年入社です。アスパラガスを担当しています。お酢による減農薬に取り組み、安全安心な作物の有機栽培を目指しています。

INTERVIEW OF TOP



働きやすい職場環境を整えて、 後継者を育てます

株式会社 中塚農園 代表取締役 中塚 良行さん

次世代を担う若者を育てるために働きやすい職場環境を整えています。各種保険を完備し、稲作担当者には冬場の長期休暇を、アスパラガスの担当者には週休2日体制など、独立を目指すスタッフには全力で応援します。

所在地 〒675-2425
加西市池上町271-2
電話 0790-45-8020
FAX 0790-45-8021
事業内容 水稻を中心とした複合経営
(黒大豆、アスパラガス)
設立 2004年(2015年法人化)
資本金 300万円
売上高 3000万円
従業員数 2名、
アルバイト2名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



特A地区山田錦の生産から販売まで自社一貫体制でのぞむ

加東市

株式会社 こうせつ・たなか



私たちの思い

最近では世界的に日本酒が脚光を浴びています。「東条産の山田錦は間違いがない」と全国の酒蔵から言われるために、従業員全員で栽培農家をバックアップしています。

私たちのこだわり

生産から販売まで自社で一貫して行っています。日本有数の蔵元12社が、東条の山田錦を用いて最高級の日本酒造りを目指す「フロンティア東条21」の会とは固い信頼関係で結ばれています。

おもな作物

水稲の経営面積は約15ha。約11haで山田錦を栽培(年間約50t)、約4haではコシヒカリ(同約2t)を栽培。ほかにライスセンター2カ所を運営。



世

界に誇る「特A地区山田錦」の生産から販売まで農家とともに「東条産山田錦」を守り続ける

酒造好適米として全国に名を馳せる「山田錦」。今では各地で栽培されている山田錦も、極上の産地と言われる「特A地区」は、三木市(吉川地区)や加東市(東条・社地区)にしか存在しません。田中米穀店として大正元年に創業して以来、100年以上にわたり同社では東条地区農家と一体となって「東条産山田錦」を守り続けています。草丈が高く粒が大きい山田錦は倒れやすく、収穫まで苦労が絶えませんが、肥料設計やライスセンター業務などを通じて約150軒の農家を支援。高品質な山田錦を全国の著名酒蔵30蔵以上に直販するほか、本社直売所では加東市産100%のコシヒカリや玄米などを販売しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



藤原 隆文さん(34歳)

自動車整備士として約10年働き、2019年2月入社。実家が東条で農家をしていたこともあって、子どもの頃から手伝っていた農業に興味がありました。旧東条町が合併して加東市となり、住所から「東条」という名が消えてしまったことを寂しく思っ

ています。同級生だった田中一樹さんとともに「東条産の山田錦」の名を未来に残すため、ふるさと「東条」の農業に貢献していきたいです。

INTERVIEW OF TOP



“世界に誇る山田錦”を守り継ぐために次世代を担う若い力で育てていきましょう

株式会社 こうせつ・たなか 取締役 田中 一樹さん

私たちがつくった「東条産山田錦」は、大吟醸づくりに欠かせない酒米として名だたる銘酒を生産する全国各地の酒蔵から大きな信頼をいただいています。私たちと一緒に世界に誇るこのブランドを守り、育てていきませんか。

所在地	〒673-1311 加東市天神194
電話	0795-47-0033
FAX	0795-47-0260
HP	フェイスブック「株式会社こうせつ・たなか」で検索
事業内容	酒米(山田錦)、うるち米の生産・出荷、 玄米とう精・販売、農業・肥料販売、 ライスセンター・農業委託作業業務
設立	2003年
資本金	1000万円
売上高	4億2500万円
従業員数	5名



姫路市の農業分野で唯一、経済産業省の地域未来牽引企業に選出

姫路市

株式会社 香寺ハーブ・ガーデン



私たちの思い

私たちは人と自然の共生を理念に、ハーブを通して世の中の役に立つことを実践します。植物やハーブがもつ力を真摯に研究し、人の健康と幸せに貢献します。

私たちのこだわり

「高度な研究・開発により、安全・安心な製品は生まれる」を掲げ、大学や企業と積極的に共同研究を重ねています。野菜から抽出した不凍タンパク質の商品化や化粧品素材の開発で成果を上げてます。

おもな作物

ハーブ全般およびそれらを素材とする化粧品。おもに冷凍食品の品質保持剤に活用できる不凍タンパク質など。



植

物の力ですべての人をHappy!に

農業6次産業化の先進として地域活性化にも貢献

1984年に開園した研究開発型ハーブ園から35年。「香寺ハーブ・ガーデン」では、創業当初から一貫して「謙虚に自然から学ぶ」姿勢を貫いています。香寺町のハーブ園のほか、夢前町では約3haの遊休農地を転用してハーブの生産・加工を手掛け、2016年には地元野菜や玄米などを使った食養生レストラン「且緩々（しゃかんかん）」をオープン。ハーブを素材に6次産業化を進めています。また、過疎化で廃校となった同町内の山之内小学校の校舎を活用し、「夢前工場」としてハーブの研究開発、加工場に転用。現在、姫路市地域再生計画「こころとからだ農業を元気にする“ハーブの里山プロジェクト”」の主軸メンバーとして貢献しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



田邊 佳弥さん(25歳)

神戸大学農学部卒業。学生時代に聴いた福岡社長の「バイオ産業論」講義が縁で2016年入社。化粧品の研究開発、製造部門を担当しています。少人数なので責任ある仕事を任せてもらっています。ハーブの可能性をさらに研究し、自分が開発した新商品を誕生させたいです。



西内 梨乃さん(22歳)

千葉大学園芸学部を卒業し、2019年入社。昨年「且緩々」を訪れて、当社の「人と自然の共生」という理念に共感しました。現在「且緩々」で接客や配膳、調理補助を担当しています。お客様の喜び顔や感謝の言葉を励みにがんばっています。

INTERVIEW OF TOP



“ハーブ”で心身ともに健康な社会づくりに貢献するために
“女性のチカラ”を積極的に活用しています

株式会社 香寺ハーブ・ガーデン 代表取締役 福岡 譲一さん

ハーブ化粧品の開発や収穫したハーブの加工、食養生レストランの運営などにおいて女性の視点や能力は欠かせません。当社では女性に活躍してもらうために育児休暇や短時間勤務など、それぞれの事情に応じた雇用・勤務形態で対応しています。長く安心して働ける職場づくりをしていきたいです。

所在地 〒679-2155
姫路市香寺町矢部689-1
電話 079-232-7316
FAX 079-232-7306
HP <http://www.koudera-herb.com/>
事業内容 ハーブの生産・加工、関連商品卸・販売、
ハーブガーデン、食養生レストランの運営
設立 2001年(創業1984年)
資本金 1000万円
売上高 1億3000万円
従業員数 5名、パート20名



インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



姫路市

児島園芸有限会社



生

産者と消費者の距離が近いことを強みに
「なっば屋こじま」で新鮮・安全・安心な野菜を市民に提供

姫路市南東部、祭りの盛んな「妻鹿(めが)」地区の浜手緑地南側にビニールハウス21棟が立ち並びます。姫路中心部からの通勤圏内に、これだけの規模の都市型農園を運営しているのは「児島園芸」をおいて他に類を見ません。同社では葉物野菜のハウス栽培を中心にやってきましたが、ここでは耕作面積に限界があり、近年では姫路市北西部の林田町に露地栽培を主体に第2農場を経営。生産者と消費者の距離が近いことを強みにニーズに合わせた多品目の野菜を育てています。同社の野菜は、地産地消を掲げ、一定の基準の満たしたものに姫路市が認定する「姫そだち」ブランドばかり。独自ラベル「なっば屋こじま」が貼られた野菜は姫路市民に「安全・安心」と「新鮮なおいしさ」を提供しています。

働く人の

INTERVIEW



岩崎 早敏さん(24歳)

大学で経営学を学び、2018年入社。当初は営業の仕事を目指していましたが、「手に職をつけたい」「農業の将来を担っていききたい」という思いから地元の農業法人を探し、当社に入社しました。野菜栽培を通じて自分の手で価値を作り上げることにやりがいを感じます。



村山 昂汰朗さん(18歳)

工業高校ではクルマ関係のもののづくりに興味がありましたが、縁あって2019年からパートで働いています。気さくで仲のよい雰囲気職場です。作業をやり終えた時や収穫した時の達成感もひとしお。農業のさまざまな体験を積んでいきたいです。

私たちの思い

心がけているのは「選ばれる商品づくり」「減り続けている都市型農園を存続、発展させていくことが、結果的に将来の食料自給率のアップにつながる」という使命感を持って取り組んでいます。

私たちのこだわり

取引先やお客様の多様なニーズに答えるため、多品目の野菜づくりに挑戦し続けています。主婦がスーパーや直売所で毎日気軽に買える“普段使いの野菜”を、朝収穫して夕方店頭には並び新鮮さでお届けします。

おもな作物

葉物野菜(ほうれんそう、こまつな、みずななど)、さといも、なす、えだまめ、ブロッコリー、セロリなど。ルッコラは大手飲食店チェーンと通年契約栽培。ほかに姫路の伝統野菜(網干メロンなど)も。



外観



INTERVIEW OF TOP



スキルを身に付けて、農業で生計を立てていく
そんな意気込みのある若者を応援します

児島園芸有限会社 代表取締役 児島 匡さん

農業ははじめに取り組めば必ず成果や自身のスキルとなって実を結びます。職業として農業を選択し、生計を立てていこうという若者(新規就農者)を歓迎します。栽培指導はもちろん、資材や農地についてもサポートします。将来独立を目指すことも可能ですよ!

所在地 〒672-8031
姫路市飾磨区妻鹿1472-3
電話・FAX 079-246-2117
事業内容 ハウス葉物野菜、
露地野菜の生産・販売
設立 1994年
資本金 300万円
売上高 3000万円
従業員数 3名、
パート4名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



姫路市

有限会社 村上ポートリー



私たちの思い

「笑顔と喜びと活気にあふれ、優れた多くの人が集い、真に社会に貢献し、食の源である畜産・農林漁業を支え発展させる、日本一の創造力みなぎる企業となる」を企業理念としています。

私たちのこだわり

養鶏場事業部と農業事業部の両方を持つ当社だからこそ実現できる「農業畜産連携の循環型農業」をしています。循環型農業で食の源である第1次産業を支え、発展させていきたいと考えています。

おもな産品

ビタミンEが通常の約3倍もある卵「藤橋家の夢美人」と兵庫県で生産された飼料米をエサとした鶏から生まれる卵「ひょうごの穂々笑実（ほほえみ）」を中心に、年間9,000tを関西一円のスーパ―や飲食店へ出荷。



モーツァルトの音色と良質の飼料米で育てる鶏 まろやかな味わいや栄養価の高い卵を生産

中国自動車道夢前スマートICから車で約5分、山々に囲まれた地に養鶏事業を営む「有限会社 村上ポートリー」があります。大きな特長は、20万羽の鶏にモーツァルトの音色を聞かせてストレスフリーの環境で育てているところ。さらに10年以上前から採卵、洗卵、サイズ選別、パック詰めまでがオートメーション化されています。卵は購入者が初めて素手で触るので極めて衛生的。しかも朝採れた卵はその日のうちに出荷。新鮮で、安全、安心な健康卵を毎日食卓に届けています。また、鶏糞堆肥による土づくりから育まれる飼料米を鶏のエサにするという農業畜産連携の環境に優しい循環型農業も実現しています。



外観



働く人の

INTERVIEW



唐津 菜歩さん(25歳)

兵庫県立農業大学校を卒業後、2015年入社。鶏の体調管理を担当しています。一羽一羽を目で見て、匂いをかいで、五感による注意深い観察で病気の早期発見に努めています。



岩波 希良々さん(21歳)

兵庫県立農業高等学校から2017年入社。卵をパッキングする機械のオペレーターを担当しています。現場は外国人の実習生も多く、みんな仲良く笑いが絶えない元気な明るい職場です。

INTERVIEW OF TOP



笑顔が絶えない働きやすい職場で活躍しませんか？

有限会社 村上ポートリー GPセンター長 森本 晃平さん

若者が多く活気ある職場です。一人ひとりがやりがいを持って、笑顔と健康を食卓へお届けできるように最良の卵づくりに取り組んでいます。また、人間関係が良好で、関連会社の若い社員と情報交換をしたり、活動と一緒にすることも多々あります。

所在地 〒671-2103
姫路市夢前町前之庄1627
電話 079-336-1505
FAX 079-336-3820
HP <https://fujihashiya-murakami.com/>
事業内容 養鶏業、鶏卵販売、飼料米・食用米の生産販売
設立 1988年
資本金 1000万円
売上高 18億7000万円
従業員数 10名、パート22名、外国人実習生10名



インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



環境に配慮した農業で、安全安心、美味しい作物を生産

神崎郡市川町

有限会社 環境微生物研究所



私たちの思い

地域農業の担い手として、安心して任せてもらえる法人を目指してしています。県外の先進地域に研修に行くなど、持続的農業の発展のため情報収集や体制づくりに努めています。

私たちのこだわり

隣接する「ひまわり工房」で、6次産業のお弁当や総菜を加工販売しています。地域の老人会や各種団体の集会に配達するなど、地域活性化の取り組みに貢献しています。

おもな作物

加工用米(日本晴)を年間18t、卸業者と農家グループ「大地の会」へ。もち米年間20tと米粉用の米(ヒノヒカリ)9tを加工業者へ。麦年間10tはJAへ。大豆と小豆の年間2tは契約栽培。キャベツ年間8t、アスパラ年間1tは直売所へ。



外観



「A-GAP」の取得で国際基準の安全性、食味、環境保全を証明

1999年法人設立当初、村田敏朗代表は自然界に存在する微生物を利用して環境に優しい農業を実践しようと法人名を「環境微生物研究所」と名付けました。EM菌やラクトバチルス菌などの微生物資材で試行錯誤を繰り返しながら、現在は、緑肥の「ヘアリーベッチ」を施すことで、根粒菌が増殖し栄養に富んだ土づくりができるという農法を採用しています。より良い農業を目指す村田代表の志は高く、今年8月には、食品安全、労働環境、環境保全を実践する優良企業に与えられる世界共通ブランド「A-GAP(アジアギャップ)」を取得。安全安心な作物と地球にやさしい農法で、地域農業の未来を守っています。

働く人の

INTERVIEW



村田 匡兼さん(34歳)

兵庫県立農業大学校を卒業し、農機メーカーで働いていましたが、2017年父が経営する当社に入社しました。主にオペレーターの作業を担当し、トラクターやコンバインなど農機具の整備もしています。近平地区では、高齢化と後継者不足による問題が深刻です。若い人が魅力を感じる農業を実践していきたいです。

INTERVIEW OF TOP



常にチャレンジしていける人材を求めています

有限会社 環境微生物研究所 代表取締役 村田 敏朗さん

全ての挑戦には、成功も失敗もないと思っています。我社で働く人は、常に新しいことにチャレンジして、自己成長と共に地域農業の発展を目指してほしいです。そのために農業人として一人前に成長する学びを身に付けてもらえるようバックアップは惜しみません。農業にしっかり向き合い、可能性を広げて取り組んでいきたいという人を待っています。

所在地 〒679-2327
神崎郡市川町近平59
電話 0790-26-2879
FAX 0790-26-1211
事業内容 農産物生産販売
設立 1999年
資本金 400万円
売上高 3800万円
従業員数 1名、パート2名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



赤穂市

株式会社 デイリーエッグ



私たちの思い

多様化する日本の食生活の中にあって、鶏卵は欠かすことのできない食産物です。安全で高品質な卵を安定的に供給するという使命感をもって、おいしさの笑顔あふれる食卓に貢献します。

私たちのこだわり

岡山農場(育成・育雛)、赤穂農場(集卵・出荷)、堺工場(液卵製造)の3拠点を有し、ヒナから成鶏、集卵、加工に至るまで一貫した生産システムを可能にしています。

おもな産品

「ゴマ海草たまご」「赤穂の源」「ココナ」などのパック詰め各種鶏卵を1日約150t生産。ほかに液卵(液卵黄・液卵白など)、鶏糞(袋詰発酵鶏糞)など



育

成、集卵から出荷まで、一貫した生産システムが生み出す信頼のクオリティ



外観



「デイリーエッグ」本社のある赤穂農場。緑深い自然に囲まれた近代的な鶏舎では約170万羽の鶏を育てています。いち早くインライン方式を導入。鶏舎内で自動的に集められた卵はコンベアで直接GPセンター(洗卵選別工場)に送られ、自動ヒビ検知機などによる厳格な品質管理が行われています。岡山農場ではヒナから成鶏まで育成。優秀な「安心卵」を生み出すため、鶏舎の衛生管理と鶏の健康検査を徹底しています。同社では育雛から出荷まで一貫したトレーサビリティを確立。また、2015年には三重県伊賀市にグループ会社として「伊賀産業株式会社」を設立し、鶏舎での集卵・出荷をスタート。関西にとどまらず、東海・中部エリアにも「安全・安心」そして「新鮮」な卵を食卓に届けています。

働く人の

INTERVIEW



さん べい
三幣 真弘さん(21歳)

兵庫県立農業大学校卒業、2019年入社。営業を担当。もともと鶏に興味があり、同校の派遣実習で当社で集卵などの業務を体験。職場の人たちが明るく、人間関係を大事にする社風が気に入りました。大手取引先との営業は大変ですが、商品を全国区ブランドにしていきたいです。



四之宮 明さん(21歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業して2016年に入社。高校の授業で鶏や卵に興味を持ち、見学実習で当社を訪れたのがきっかけです。鶏舎の管理を担当し、最近では外国人実習生の指導もしています。小さなことでも「声がけ」や「助け合い」を忘れずがんばっています。

INTERVIEW OF TOP



生まれたてのクオリティが基本です

株式会社 デイリーエッグ 本社 赤穂農場 農場長 長尾 智さん

私たちは健康な鶏を管理し、新鮮な卵を毎日生産しています。飼養管理の結果に鶏たちも正直に反応し、そこに生き物相手の仕事ならではの面白さや魅力があります。鶏の健康、成績を考えながら取り組み、飼養管理技術を重ねることで、さまざまな分野においてオールラウンドに自分を進化させることができる職場です。デイリーエッグで進化する養鶏業界の最先端と一緒に歩みましょう。

所在地 〒678-1181
赤穂市東有年1650
電話 0791-49-2858
FAX 0791-49-3668
HP <http://www.dailyegg.com/>
事業内容 養鶏業、鶏卵販売、
液卵・肥料の製造販売
設立 1960年
資本金 6000万円
売上高 140億円
従業員数 180名
(全拠点正社員数)



インターンシップ
随時受け付け。詳細は
問い合わせを。



人材を重視し、データを基に品質の維持・向上に努める

赤穂市

有限会社 米ログリーンナーセリー



私たちの思い

お客様や取引先から「どんな苗でも揃っている米ログリーンナーセリー」と言われるように、多種多様な苗をひとつひとつ同じ品質で生産できるように、従業員全員で努力しています。

私たちのこだわり

特に花や野菜などの苗栽培では、毎年継続して同品質の商品を出荷できるように、毎日の気象条件や栽培記録データをしっかりと管理、蓄積しています。

おもな作物

花苗、野菜苗合わせて200品目を年間250万本生産。ねぎ、たまねぎ苗1,100万本。米はコシヒカリ、クニヒカリ、ヒノヒカリなど約30t。さつまいも約5tなど。



外観



花苗・野菜苗を中心に、稲作で地域農業に貢献 長く働きやすい職場環境づくりにも注力

米ロ農園から「米ログリーンナーセリー」として1995年に法人化。総合園芸会社へ飛躍させた先代を受け継ぎ、現在同社では事業の多角化と人材の育成に重点を置いた農業経営を行っています。主力商品は約200品目におよぶ花苗や野菜苗。自社直営店「ドリーム・カンツリー」のほかホームセンターや種苗店へ年間約250万本を出荷しています。約10haの農地では米やさつまいもなどを栽培。6次産業化を念頭にさつまいもを「干し芋」に加工し、JA直売所や直営店での販売にも着手しています。地元木津地区の農作業受託（稲作）では地域農業を持続させる使命感を持って米づくりにも全力を注いでいます。

働く人の

INTERVIEW



黒田 大智さん(23歳)

兵庫県立農業高等学校卒業、2017年入社。学生時の1日体験で、米から野菜・花苗など幅広く事業を展開していることに魅力を感じ入社しました。社長の指導は厳しいですが、私のことを思ってくれているので、毎年成長できていることを実感しています。



島田 安里子さん(41歳)

もともとは直営店の常連客だった私。「花苗づくりを自分もしてみたい」と思いパートとして入社しました。子育て中ですが、勤務時間の希望を聞いてもらえるので助かっています。長く働き続けたいです。

INTERVIEW OF TOP



働きやすい職場環境を整えて 継続して良質な商品をつくり続ける

有限会社 米ログリーンナーセリー 代表取締役 米ロ 彰さん

栽培記録を丁寧に蓄積し、次の栽培に生かすことで、毎年品質が変わることのない良質の苗や農産物をつくり続けることが会社の信用につながります。農作業や園芸には経験を積んだ人材が欠かせません。当社では一人ひとりの希望に合わせた勤務時間を組み、働きやすい環境を整えています。インターンシップ歓迎します。実習生としてぜひ体験に来てください。

所在地 〒678-0165
赤穂市木津334
電話 0791-48-0786
FAX 0791-48-1184
事業内容 花苗、野菜苗、米の生産・販売・卸
苗の直営店、農家レストランの経営
設立 1995年
資本金 500万円
売上高 1億8000万円
従業員数 9名、
常勤パート26名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



お米で人を幸せにすることをミッションに土づくりにもこだわる

相生市

株式会社 百姓



私たちの思い

「安全で、自分がおいしいと感じること」を基準にすべての作業に手を抜かず、誠実なお米・野菜づくりを心がけています。「土から育てる」ことを大切に、農業に頼らない農業を目指しています。

私たちのこだわり

自家製たい肥にこだわっています。米ぬかや籾殻のほか、近隣農家から牛糞やしいたけ廃菌床を譲り受け、自社内で1年間発酵。すべての田に散布しています。

おもな作物

米(コシヒカリ・ミルキークイーン・夢ごこち・キヌヒカリ・ヒノヒカリ・きぬむすめ・日本晴・はりもち)や大豆・小豆、だいこん・はくさいなど旬の野菜をインターネット通販や飲食店へ直販。相生市の学校給食への提供もしています。



土

から「おいしい」を育む農を 自慢の米・野菜を全国の消費者へ販売

「百姓の農作物はちょっと土臭い」。そう言われるほど土の栄養をたっぷりと吸い込んだ作物を「百姓」では「おいしさの証」と考えています。地元農家から借り受けた約38haの耕地で多様な作物を栽培。土にこだわり丁寧につくられた米や野菜は評判を呼び、インターネット通販で購入する全国各地のお客様がほとんどリピーターとなっていることがその証です。2008年に上郡町・相生市の土地利用型農家の若手後継者6名とともに「真心ファーマーズ」を結成。現在7社が共同でリース農機具をシェアしたり、環境にやさしい農業生産の研究などを行っています。

外観



働く人の

INTERVIEW



松田 龍児さん(25歳)

大学を卒業し、しばらく営業の仕事に従事した後、入社しました。米や野菜の品種ごとの栽培方法を毎日指導を受けながら実践しています。社長の「体と時間の使い方は自分で考えて行動する」という方針のもと、経験を重ねながら自分なりの働き方が

実現できることにやりがいを感じています。将来の夢は「百姓」の米・野菜を使った自分の料理店を持つことです。

INTERVIEW OF TOP



土も、米も、野菜も。 育むすべてがHappy Seed!

株式会社 百姓 代表取締役 小倉 篤さん

一つひとつの作物を「ウチの子たち」と呼んで丁寧に育てています。作物の「おいしさ」の基本は「土づくり」から。天然素材を使った自家製たい肥を全ての耕作田で使っています。食べる人に幸せを感じてもらえるような「おいしい米づくり」を一緒にがんばっていきましょう。

所在地	〒678-0092 相生市矢野町上土井938-1
電話・FAX	0791-29-1868
HP	フェイスブック「株式会社 百姓」で検索
事業内容	水稲、豆類、旬野菜の生産・販売
設立	2009年
資本金	300万円
売上高	8000万円
従業員数	2名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



佐用郡佐用町

東徳久(ひがしとくさ)地区農事組合法人



20 歳代を中心に営農 責任ある立場でやりがいを感じる

「佐用町南光ひまわり祭り」の会場の一つ、東徳久(ひがしとくさ)地区。「東徳久地区農事組合法人」はこの徳久地区の農家が、1996年に15名(理事13名、監事2名)で営農組合として立ち上げ、2002年に農事組合法人になりました。

後継者育成に積極的に取り組み、現在は水稻約43ha、野菜6.5haの耕地を、20歳代の男性従業員4名が中心になって作業しています。センター長や水稻主任などの役職がそれぞれにあり、責任ある仕事を任せられ、「やりがい」に繋がっています。2019年11月にはベトナム人女性2名が研修生として入社します。

私たちの思い

地域の農業を守り、後継者を育てたいという思いで農業に取り組み、水稻をはじめ、佐用町のシンボル・ひまわり、佐用もち大豆などの地元の特産品もつくっています。

私たちのこだわり

緑肥作物のヘアリーベッチを利用した土づくりを行い、化学肥料・農薬の使用をできるだけ抑えて栽培しており、エコファーマー※に認定されています。

※環境にやさしい農業で認定を受けた生産者

おもな作物

水稻はコシヒカリ、酒米(兵庫錦等)。ひまわり、薬草、麦、大豆、野菜(キャベツ、はくさい)を栽培しています。



外観



働く人の INTERVIEW



西山 穀哉さん(23歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科の校外現場実習ではここで世話になりました。入社6年目。2019年センター長になり、皆が働きやすいよう心がけて、現場を取り仕切っています。



下村 和也さん(22歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科卒業、入社4年目です。水稻主任としてライスセンターを任されています。田植えや稲刈りのときの機械の操作が楽しいです。将来は独立も考えています。

INTERVIEW OF TOP



販路を海外へも展開、従業員の福利厚生に積極的

東徳久農事組合法人 組合長 鎌井 宏之さん

法人として販路の確保が大切と、「株式会社 神明」をメイン取引先として販路を香港など海外へも増やしています。

2019年G-GAPを取得。農産物検査員や大型特殊免許(農耕用限定)、狩猟免許など従業員の資格取得の推進をはじめ、土・日曜を基本にした休みの取得、従業員宿舍の用意など、福利厚生に努めています。

所在地	〒679-5213 佐用郡佐用町東徳久2358
電話	0790-78-1970
FAX	0790-78-1971
事業内容	農産物の生産・販売
設立	2002年
資本金	113万円
売上高	1億円
従業員数	24名

インターンシップ
兵庫県立佐用高等学校農業科学科から毎年受け入れ



佐用郡佐用町

株式会社 みかづきe



私たちの思い

日本の食文化は農業が作るという思いで、安全でおいしい農作物を作っています。古き良き日本の食を提案したいと、農作物の加工品を姫路城前のセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』で販売しています。

私たちのこだわり

土づくりは健康づくりと考え、化学肥料・農業を使わず、発酵鶏糞を使用。除草剤は年に1回だけとこだわり、栄養価の高い作物を栽培しています。

おもな作物

水稻はコシヒカリ、もち米、酒米(兵庫錦)。大豆、小豆を栽培し、加工品(もち、おはぎせんべいなど)を作っています。



三

日月地区で水稻中心に小豆・大豆を栽培 姫路でセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』を経営

「みかづきe」はJR姫新線三日月駅にほど近く、かつての佐用郡三日月町で水稻を中心に大豆・小豆を栽培しています。代表取締役・三木伸雄さんは「自分でモノを作りたい」と百貨店から転身し、義父が設立した同社に2006年入社し就農しました。

パイヤーの経験を生かし、6次産業化を積極的に展開。酒米(兵庫錦)は地元酒造メーカーと提携し、4,000本限定の日本酒『龍力-三日月-』に、もち米・小豆・大豆は和菓子に加工し、自らが姫路城前で経営するセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』で販売。コシヒカリは社会福祉法人や地元企業、レストランへ直売と、ほとんどを自主流通させています。



外観



働く人の

INTERVIEW



長谷川 永さん(20歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業、入社3年目です。祖父母の畑を見て、どういう仕組みで作物ができるのか興味を持ち、進学しました。学校で勉強したことを三木さんに進言することもあるし、個人の判断で作業することが多く、やりが

いを感じます。『重次郎-JYUJIRO-』部門ではパン菓子製造を任されています。農業と加工・販売の一貫経営が、自分には魅力。農業は外の作業で体力が付き、農繁期・農閑期のメリハリがあるのも、いいと思います。

INTERVIEW OF TOP



農業をビジネスとして成り立たせたい 国道179号沿いの農家が連携

株式会社 みかづきe 代表取締役 三木 伸雄さん

6次産業化は昔から農家が当たり前にしていたこと。農業をビジネスとして成り立たせるために、地域と連携してモノづくりをしたい。国道179号沿いの農家・畜産農家が連携して、地元スーパーで作物や加工品の販売をしています。佐用高等学校で臨時講師として就農講座を行っています。

所在地	〒679-5131 佐用郡佐用町上本郷363
電話・FAX	0790-79-9270
事業内容	農産物の生産・販売、 加工品の直売
設立	2002年
資本金	50万円
売上高	2900万円
従業員数	3名

インターンシップ
夏休みに高校生を
毎年受け入れ。詳細
は問い合わせを。



佐用郡佐用町

株式会社 山本宮農



私たちの思い

昼夜の気温差が大きく、霧が多い気候を味方に、酒米を中心とした米づくりをしています。兵庫県が誇る酒米の生産を、地域で継続していきたいとがんばっています。

私たちのこだわり

酒米は背が高く稲が軟らかいので、倒れないように水の管理、追肥が大切です。契約収量をきちんと確保できるよう、丁寧に栽培しています。

おもな作物

水稻は酒米(白鶴錦)、コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ、加工米、うるち米、野菜はブロッコリー、ロマネスコ、キャベツ、はくさい、ひまわり、そばと多品目栽培しています。



白

鶴錦を地域の契約農家と一緒に栽培 親子三代で佐用町の農業を盛り上げる

兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する佐用町で、酒米を中心に水稻と野菜栽培を行う「山本宮農」。古くからの稲作農家でしたが、代表取締役の山本巖さんの代から酒米の栽培を始めました。2010年からは、地域の酒米栽培農家20数軒と連携して、灘の酒造メーカー白鶴酒造が独自開発した「白鶴錦」の契約栽培を行っています。どの農家も、酒米の大産地である兵庫ブランドを守る気概を持って栽培しています。

2014年にJAで働いていた娘婿の衣本貴浩さんが就農し、孫の衣本優時さんも2018年に入社。2017年に法人化し、今は親子三代で佐用町の農業を盛り上げます。

外観



働く人の

INTERVIEW



衣本 優時さん(21歳)

兵庫県立農業大学校を2018年3月に卒業後、近隣の大規模農家で基礎を学んで、9月に入社しました。祖父・父の姿を見たり、少し手伝ったりしていたので、進路を決めるときに農業をやってみようと思い、農業大学校に進みました。

米づくりのほか、祖父の勧めで、野菜づくりに挑戦しています。稲作の後は冬野菜の定植を始めています。消費者にいいと言ってもらえる野菜をつくりたい。学校や他の農家で学んだことは、実際の仕事でも役立つことが多いですよ。

INTERVIEW OF TOP



機械化で省力化し労働環境改善を 稲作の農閑期には多品目の野菜栽培も

株式会社 山本宮農 代表 山本 巖さん

従業員がきちんと休みが取れる職場にしたいと、約10年前から機械化にも積極的に取り組み、省力化を進めています。年間を通して仕事があることも大切で、多品種の野菜の栽培も行い、冬野菜の栽培は若い2人に任せています。

所在地	〒679-5205 佐用郡佐用町安川896
電話	0790-78-1087
FAX	0790-78-1085
事業内容	農産物の生産、販売。農作業の受託
設立	2017年
資本金	500万円
売上高	4000万円
従業員数	6名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



たつの市

株式会社 ささ宮農



私たちの思い

日本の活力の源でもある「農地を守る」ということが一番の思いです。スマート農業を進める一方、先人たちから引き継いだ人の目と手をかける栽培方法も大切にしています。

私たちのこだわり

主力ブランド「ささのう米(うまい)」をはじめ、天日干し製法の「はさがけ米」や水田にメダカを放流し栽培する「めだか米」など、こだわりの米づくりで多様な消費者ニーズに対応しています。

おもな作物

米は年間160tを給食センターやスーパー、大阪の販売所へ出荷。小麦年間63t、大豆年間15tはJAから株式会社 ヒガシマル醤油へ。パジル年間54tは一次加工後、神戸の調理食品専門メーカー、エム・シーシー食品株式会社へ出荷。



外観



県 推奨ブランド米と高収益作物の栽培で地域の元気アップにも貢献

清流揖保川の豊かな水源を活用して農業を営む「株式会社 ささ宮農」。米、大豆、小麦、パジル、季節の野菜など、約56haの農地を管理しています。主力の米づくりは、他との差別化を図るため、2013年に有機肥料による特別栽培で兵庫県認証食品を取得。安全安心でおいしいお米を消費者へ届けています。また2004年、当時では珍しかったパジルの生産を開始。その10年後には自社工場が完成。朝早くから手摘みしたパジルを新鮮なままペーストにして冷凍しています。その品質の高さは西播磨フードセレクション金賞を受賞するほど。生産が追い付かず地元農家も巻き込みながら、地域と共に発展していく姿は頼もしい限りです。

働く人の

INTERVIEW



竹北 貢さん(46歳)

2010年入社。経営方針や作付計画全般、ささ宮農と加工場の総括を担当しています。農業は自然と向き合う仕事なので常に変化があります。そこが楽しめることだと思います。



森口 正也さん(31歳)

新しい農業の技術や作物に興味があり2017年入社しました。土づくりから植え付け、収穫とさまざまな作業を担当しています。消費者に信頼される農業を目指していきたいです。

INTERVIEW OF TOP



休日や各種社会保険を完備して一緒に働く人を待っています

株式会社 ささ宮農 代表取締役 八木 正邦さん

今後もほ場整備が進み、管理面積は増え続ける予定ですが、従業員数が少なく着手できないのが実情です。農業に従事する若者を「金の卵」と思い、会社の中核を担う人材として育成します。独立を目指す若者には手厚いサポートと一緒に地域農業を盛り上げたいです。

所在地 〒679-4304
たつの市新宮町下笹1049
電話 0791-77-0177
FAX 0791-77-1770
HP <https://www.sasaeinou.com/>
事業内容 農業、機械修理、加工、販売
設立 2006年
資本金 3000万円
売上高 2億2000万円
従業員数 11名、パート50名



インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



社名の「J」は二代目、「McCoy」は本物、逸品

たつの市

株式会社 J McCoy (ジェイマッコイ)



自然志向の人々から絶大なる支持 化学肥料に頼らない本物の味を提供

たつの市北部、昼夜の気温差が大きく作物づくりに適した場所にある「株式会社 J McCoy」。減農薬、無化学肥料、作物によれば完全無農薬で、米や大豆、ブルーベリーなど、約23haを作付けしています。緑肥を田畑にすき込み、米ぬか、くず大豆を散布し、除草剤ではなく除草機で雑草を抜き、ぼかし肥料など有機肥料や自社製の竹パウダーを使用するなど、農薬や化学肥料に頼らない循環型農業です。「自然のエネルギーや植物、商品にはできないけれど肥料として役立つ副産物の力を借りて生産しています」と語る上田哲也代表。その姿勢に賛同者は多く、地元はもちろん全国に美味しくて安全安心な「J McCoy」の味を届けています。

私たちの思い

「人に喜びを与え、必要とされる企業」を目指しています。そのためにまず我々「働く人」が幸せであること。「家族や友人に話したくなる仕事をしよう」をモットーにしています。

私たちのこだわり

地域にとってかけがえのない存在になりたいです。小学生などを対象に、田植えや稲刈り、ブルーベリーの摘み取り体験で地域農業の大切さを広めるなど、地域との関りを深めています。

おもな作物

夢ごち、ミルキークイーン、ヒノヒカリ、もち米を合わせて年間60tを事業所、直売所、個人へ出荷。小麦年間37tと小豆年間4tをJAへ。大豆年間5tをはじめ黒大豆、れんこん、ブルーベリーは6次産業として商品加工も。



外観



働く人の

INTERVIEW



島 紘太さん(26歳)

岡山理科大学を卒業し、2016年に入社。栽培全般の作業とリーダーとして他のスタッフのマネジメントを担当しています。農業のことは全く知らずに働き始めましたが、代表が丁寧に教えてくださり成長できました。これからは難易度の高いことにもチャレンジし、できることを増やしていきたいです。

INTERVIEW OF TOP



「美味しい!」と言ってもらえる作物づくりは ワクワクしながら働くこと

株式会社 J McCoy 代表取締役 上田 哲也さん

従業員を大切に作る職場です。土日祝の休みや各種保険の完備だけではなく、給与査定においても面談で点数化する方式を採用しています。また、ワクワクしながら仕事をするのをポリシーとしていて、楽しく働く環境は整っていると思います。これからはイベントや展示会に積極的に参加してつながりを増やし、従業員も会社も一緒に成長していきたいです。

所在地 〒679-4343
たつの市新宮町大屋387-1
電話 0791-75-2217
FAX 0791-75-2342
HP <http://www.uedanouen.net/>
事業内容 農産物、加工品の生産・販売
設立 2016年
資本金 100万円
売上高 4000万円
従業員数 4名、パート2名

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。





高品質なヒナの供給で食卓に笑顔と健康を届けます

たつの市

有限会社 新宮ファーム



私たちの思い

「笑顔と喜びと活気に溢れ、優れた多くの人が集い、真に社会に貢献し、食の源である畜産・農林漁業を支え発展させる日本一の創造力みなぎる企業となる」という藤橋家グループの経営理念を胸にがんばっています。

私たちのこだわり

地域住民と環境に配慮して臭気、汚水、粉じん対策を設立当初から行っています。肥料となる発酵鶏糞は「良い野菜が育つ」と好評で、地域と共に発展していく企業を目指しています。

おもな産品

藤橋家グループの一員として「村上ポトリ」への出荷を含み、年間70万羽のヒナを兵庫県・岡山県・京都府・奈良県・高知県・広島県・島根県などへ出荷。また、年間約450tの発酵鶏糞を近隣農家へ販売しています。



ヒナの小さな命に愛情と真心を込めて 元気な採卵鶏へ育てます

「有限会社 新宮ファーム」は、たつの市新宮町を流れる揖保川にほど近い場所にあります。ヒナが生まれてから鶏卵を生産できるようになる約4カ月間の育成事業をしています。「健康で卵をしっかりと産める高品質なヒナ」に成長させるため、鶏舎の衛生対策、温度管理を徹底。また、免疫力を高めるワクチン接種や、元気なヒナに育てるために善玉菌を増やすビタミン剤や制菌剤を与えるなど、新宮ファームが培ってきた飼育法を基本に、日々最新情報を取り入れながら育成しています。愛情いっぱい育てたヒナたちは、「元気で卵をよく産んでくれる」と出荷先から安心、信頼、満足の声が多く寄せられています。

外観



働く人の

INTERVIEW



富田 裕紀さん(22歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業し、2016年に入社しました。鶏舎1棟、約3万羽のヒナの育成管理を担当しています。ヒナはストレスから病気になることが多く、猛暑や極寒の温度管理を自分なりに工夫して過ごしやすい環境を整えています。今後の目標は元気なヒナをお客様に届ける出荷リーダーになることです。

INTERVIEW OF TOP



新宮ファームをお客様から信頼され、 満足される会社と一緒にしていきましょう

有限会社 新宮ファーム 新宮農場 農場長 福田 浩行さん

私たちの仕事は、手のひらに乗る小さいヒヨコを多くの技術と知識で鶏にまで成長させる「命を育てる」仕事です。卵は日本の食卓には欠かせない栄養食品。多くの家庭の食卓を支えるやりがいのある仕事です。生き物相手なので試行錯誤することが多々ありますが、提案を受け入れる風土がある職場です。私たちと一緒に充実した日々を送りましょう。

所在地 〒679-4314
たつの市新宮町曾我井103
電話 0791-75-2280
FAX 0791-75-4786
HP <https://fujihashiya-shingu.com/>
事業内容 採卵鶏育成事業
設立 1982年
資本金 1000万円
売上高 4億6000万円
従業員数 10名



インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



たつの市

株式会社 博農



私たちの思い

栽培・収穫・出荷すべてにおいてきめ細かな仕事を心がけています。お客様が必要とする用途に合わせた最適な品種、調理・加工方法の提案など、「野菜のオーダーメイド栽培」を心がけています。

私たちのこだわり

取引先のニーズとともに、家族の「食」を預かる主婦の目線を大切にしています。女性従業員も積極的に商談に参加。調理方法やレシピの提案などを通じて、出荷野菜に付加価値を付け、販路・売上拡大に貢献しています。

おもな作物

にんじん・キャベツ・ブロッコリー・だいこんなど、栽培する野菜品種は約25品目に及びます。JAを通じて京阪神の市場へ出荷するほか、京阪神・名古屋のスーパー各社、契約飲食店などへも出荷。



丁寧に育て、丁寧に収穫、丁寧に出荷 付加価値の高い野菜づくりで販路を拡大

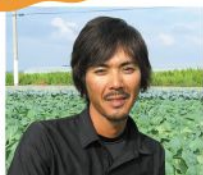
たつの市臨海部に位置する広大な干拓地「成山新田」が「博農」の生産現場です。育てることから収穫・出荷、店頭で商品が並びまで、すべて「丁寧に」を基本に野菜栽培を行っています。心がけているのは「取引先や消費者に「買ってもらう」のではなく、「買いたいと思わせる」野菜をつくること」。「博農にんじん」は2019年9月、日本野菜ソムリエ協会も参加する「日本青果物ブランド推進協議会」による第1回ブランド認証品目に認定。「糖度が高くジュースにも最適。子どもも大好きになるにんじん」と高い評価を獲得しました。「農業をこよなく愛する」ことが原点の同社では若手や女性従業員のアイデアを積極的に活用し販路を拡大。「選ばれる野菜」づくりに邁進しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



玉垣 祐希さん(41歳)

測量の仕事に従事した後、2019年6月入社。もともと野菜が好きなこと、一から育てて作物というカタチになる農業にやりがいを感じて入社しました。アットホームな会社で毎日が学びの連続です。同じ志をもつ他の農業法人との交流や研修の場も多く、農業を一生続けていこうと思っています。

INTERVIEW OF TOP



農業経営体にとって一番大切なのは人材
モチベーションがあって
自分なりの夢をもつ若い農業人を育てたい

株式会社 博農 代表取締役 八木 隆博さん

農業をひとつの産業として存続、発展させていくために、これからは作物に付加価値を付け、つくり手が優位に立てる販路を開拓していくことが重要になります。農作物を育てることは母親が子どもを育てることと似ています。「農業が好き」、「育てることが好き」な人を歓迎します。夢を持って野菜のプロフェッショナルを目指しましょう。

所在地 〒671-1321
たつの市御津町刈屋1036-1
電話 079-322-4500
FAX 079-322-4600
HP <http://www.hakunou.co.jp>
事業内容 農産物の生産販売、
加工食品の製造販売
設立 2012年
資本金 1000万円
売上高 1000万円(※)
※加工業務部門
従業員数 4名(うち女性2名)、
パート8名(同7名)



インターンシップ
随時受け付け。宿泊可。詳細は問い合わせを。



行政と農業協同組合が共同出資。地域の農業を守っています

宍粟市

一般財団法人 宍粟北みどり農林公社



私たちの思い

「豊かな自然あふれるこの地の農業の火を絶やさない」ことを胸に刻み、全職員一丸となって少しでも農家さんのお役に立てるようがんばっています。

私たちのこだわり

農作業受託部門では「耕うん(防除を含む)」「育苗」「田植え」「稲刈り」「ライスセンター(粃摺り)」「大豆の乾燥、脱穀」など幅広くお手伝いをしています。農地所有者からの依頼にはできる限り応えていこうと考えています。

おもな作物

農業経営部門は水稻(コシヒカリ、キヌヒカリ)11haで年間約50tを生産。丹波黒大豆は7haで同約4.5t。他に白大豆など。いずれもほぼ全量をハリマ農業協同組合に出荷しています。



「地」域の農地は地域で守る」を合言葉に 森林王国「宍粟市」の農業を支える

宍粟市一宮町の、山あいには水田が広がる地域に「宍粟北みどり農林公社」があります。1994年、当時の一宮町・波賀町・千種町(いずれも現宍粟市)の3行政と同地域を業務区域とするハリマ農業協同組合の4者によって設立されました。中山間地が多い同地域の農業を守り育てることをモットーに、職員が専門的な知識と技術で農家を幅広く支援しています。農業経営部門では米や丹波黒大豆を生産。農作業受託部門では稲作を中心に宍粟市北部3町の水稲作付用箱苗約7万6,000枚を供給することも行っています。地域の特産品である丹波黒大豆は、「兵系黒3号」の原種ハウスを設置し、ウイルスフリーの種子を確保。健全な種子を栽培農家に提供しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



金井 孝文さん(44歳)

千種町の出身です。トラックドライバーを経て、当公社のアルバイトを3年経験し2014年正職員となりました。この地域は地理的に自然も厳しく農業を続けていくには大変なことが多いですが、受託している農家さんから感謝いただいたり、地域の農業を守ること地元に貢献できることにやりがいを感じています。

所在地 〒671-4144
宍粟市一宮町下野田63-1
電話 0790-72-1720
FAX 0790-72-2430
HP <http://shisokita-nourin.or.jp/>
事業内容 農業経営事業(水稻・黒大豆・白大豆等の栽培)、
農作業受託事業、農産加工事業
設立 1994年
基本財産 1億2125万円
売上高 1億4000万円
従業員数 職員数 8名
(うち契約職員1名)

インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



INTERVIEW OF TOP



農業を通じて地域に貢献できる仕事 ふるさとを愛する人材を歓迎します

一般財団法人 宍粟北みどり農林公社 常務理事 雲田 清司さん

当社が担う宍粟市北部地域は、農業従事者の高齢化や遊休農地の拡大により農業にとっては厳しい環境にあります。コシヒカリやキヌヒカリなど、宍粟市で育てたおいしいお米を絶やすことなく、この地域の農業を守ってほしいという意欲のある人材を求めています。また、当公社では一般企業同様の就労環境も整えています。地元出身者歓迎!



兵庫県畜産共進会において最高位の「名誉賞」を通算8回受賞

美方郡香美町

株式会社 上田畜産



私たちの思い

「お客様へおいしくて安全な牛肉をお届けする」ことを第一に、繁殖と肥育、食肉加工、精肉、販売をすべて行う「完全一貫生産体制」で、全スタッフが責任を持って取り組んでいます。

私たちのこだわり

夏はスキ―場で放牧し、冬はゴマやアワなど天然素材を主体としたオリジナル飼料を与えます。自然に近い環境と肥育方法によって、深い風味の赤身とあっさりした脂身の肉質になります。

おもな産品

但馬牛約1,000頭を管理。同社で育てる牛は但馬牛の中でも一線を画したものと位置付け、独自ブランド牛「但馬玄(たじまぐろ)」と命名して提供。直売店「牛匠上田」を香美町の本社と城崎温泉で展開しています。



名 牛の産地・美方地域で、究極の但馬牛を目指して

「上田畜産」の牛舎がある兵庫県美方郡は、昔から但馬牛の飼育に熱心な地域で「名牛の産地」といわれています。ここでは優れた資質・肉質を持つ但馬牛の遺伝子を後世へ継承するために、郡内の牛だけを遺伝資源として地域固有の血統を守ってきました。加えて、飼育を通じて地域の暮らしや自然環境などの保全も担ってきた耕畜連携の農業体型が評価され、2019年2月に畜産分野で初めて「兵庫美方地域の但馬牛システム」として日本農業遺産に登録されました。この美方地域の伝統的な畜産技術をベースにして、同社代表が12頭の母牛で繁殖経営を開始したのが1992年。以来、牛たちに惜しめない愛情と手間をかけながら常に「但馬牛」の品質向上に努めています。

働く人の INTERVIEW



水間 達哉さん(20歳)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業し2018年に入社。畜産農家になることは子どもの頃からの夢でした。将来の独立に備えて、この「完全一貫生産体制」からたくさんのことを学びたいと思っています。



上田 晃也さん(22歳)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業後、大学進学を経て2018年に入社。子どもの頃から父と同じ道に進みたいと考えていました。健康で優良な牛になるように一頭一頭心を込めて世話をしています。

外 観



INTERVIEW OF TOP



高品質な但馬牛を生産しながら、牛飼いの仲間を増やしたい

株式会社 上田畜産 代表取締役 上田 伸也さん

「完全一貫生産体制」を実現し、各工程での品質のチェックや消費者ニーズの把握から得た情報を、内臓から尻尾の先まで優良な「但馬牛」を生産することに生かしています。また、起業を目指す若者を育成・支援し、牛飼いの仲間を増やしていきたいと思っています。

所在地 〒667-1511
美方郡香美町小代区神水738
電話 0796-97-2929
FAX 0796-97-2915
HP <https://gyusho-ueda.co.jp/>
事業内容 但馬牛の繁殖、肥育、精肉、販売
設立 2009年
資本金 500万円
売上高 5億3000万
従業員数 15名(パート含む)





複合経営のメリットを生かし安定した通年雇用を実現

美方郡新温泉町

株式会社 湯村温泉愛宕(あたご)山観光



私たちの思い

「スキー場」「飲食・宿泊業」「農業」という経営の三本柱を連携させ、継続可能な経営を目指しています。米づくりでは、この地域に合った栽培方法で手を抜かず心を込めて作業しています。

私たちのこだわり

営農部門で収穫した自慢のコシヒカリを、但馬牧場公園内のレストランや宿泊施設で提供したり、飯米を醸造したオリジナルの純米吟醸生酒の原材料に使ったりして、そのおいしさを最大限に引き出せるように努めています。

おもな作物

コシヒカリ約4haと水稻種子を約4ha栽培しています。おいしいコシヒカリが採れる地域特性を生かしながら、地元ベテラン農家の優れた技術を継承したいと考えています。



地元営農組合と協力し、意欲ある若者とともに地域が誇る「棚田」でおいしい米づくり

丹土富士と呼ばれる愛宕山を中心とする照来(てらぎ)盆地の風土を生かしたさまざまな事業に取り組んでいる「湯村温泉愛宕山観光」。兵庫県立但馬牧場公園内にスキー場や宿泊施設(まきばの宿)、レストランを経営しながら2014年から農業にも本格参入しました。盆地特有の寒暖差のある気候ときれいな水が流れ込む棚田でつくったお米は、市場でも高く評価されています。この地域でも近年、農業従事者の高齢化や人口減少に伴う担い手不足が課題となっていますが、同社では若いオペレーターを積極的に育成し、地元の営農組合と協力して地域の誇りでもある棚田の景観を次代に残していきたいと考えています。

外観



働く人の

INTERVIEW



村田 瑞樹さん(24歳)

兵庫県立農業大学校を卒業後、畜産経営を目指して但馬牛の繁殖・肥育が盛んな新温泉町に地域おこし協力隊として移住。たくさんの田んぼを管理できるように大型特殊免許を取得しました。



土山 史登さん(23歳)

兵庫県立農業大学校では畜産を学び、新温泉町に地域おこし協力隊として移住しました。隊員として活動しながら水稻栽培を勉強中。水稻も牛も日々の管理が大切なことを実感しています。

INTERVIEW OF TOP



複合経営で可能となる通年雇用。 若い担い手を育成したい

株式会社 湯村温泉愛宕山観光 代表取締役 西坂 修さん

スキー場なども複合経営する当社では、営農部門の栽培品目が米のみであるにもかかわらず、通年雇用を可能とする強みがあります。農業経営を目指して他府県から来た若者たちには、但馬の慣習や文化にも親しみながら米づくりを学んでほしいと思います。

所在地	〒669-6813 美方郡新温泉町丹土1033 ※本社事務所は「まきばの宿」内
電話	0796-92-1005
FAX	0796-92-1006
HP	http://www.bokujyo.com/
事業内容	宿泊、レストラン、 スキー場経営と営農
設立	1972年
資本金	4500万円
売上高	9000万円 (営農部門900万円)
従業員数	5名(うち地域おこし協力隊1名)





丹波のクリーンな環境の中で兵庫県のブランド牛を育てる

丹波市

有限会社 井寄牧場



私たちの思い

世界に誇る但馬牛・神戸ビーフの生産に力を注いでいます。長年の知識と経験、牛を見極める目を大切に肥育管理し、丹波の自然の中でストレスを与えずに育てています。

私たちのこだわり

クリーンでドライな牛舎で、牛をのびのびと育てています。飼料にはエコフィードを使用し、丹波の自然の恵みであるきれいな水を与えています。

おもな産品

黒毛和種約1,250頭(うち但馬牛350頭)を肥育・販売しています。



外観



クリーンな牛舎でストレスなく肥育 独自配合の飼料でおいしい牛肉を生産

「井寄牧場」は姫路市夢前町で畜産業を始め、2004年法人化。2015年には本社を丹波市に移し、丹波農場と姫路農場で1,250頭の牛を肥育しています。全てが黒毛和種で、うち350頭が但馬牛。最高品質の神戸ビーフの生産に力を注いでいます。

山間部にある丹波農場は、天井が高く広く清潔な牛舎。牛をゆったりとストレスなく育て、餌はウイスキー粕やみりん粕を独自に配合したエコフィード(食品残渣を利用した飼料)を与えるなど、こだわりを持っておいしい牛肉をつくっています。畜産業界の人材不足対策にも取り組み、3棟ある牛舎を同じ規格にし、機械化を進めているのも特長です。

働く人の

INTERVIEW



安福 綾介さん(24歳)

中国四国酪農大学校を卒業し、入社4年目で昨年牧場長に。牛の管理全般、従業員の仕事の段取りなどを任されています。将来は酪農をしている実家を継ぎ、肥育と酪農の複合でやっていきたい。



笹原 亮さん(22歳)

兵庫県立農業大学校を卒業し、2018年4月入社。生き物が好きでこの道に入りましたが、牛が相手なので忍耐力も必要。ちゃんと休みがあり、こちらの希望を聞いてくれるのもありがたいです。

INTERVIEW OF TOP



将来的には繁殖・肥育の一貫経営に 従業員は全ての作業を経験し将来に役立てて

有限会社 井寄牧場 丹波農場責任者・獣医師 井寄 智之さん

井寄牧場の三代目です。他社で修業後入社し、丹波農場を任されています。どんな餌を与えとどんな肉になるかなど、獣医として学んだことを生かしています。繁殖・肥育の一貫経営を目指し、繁殖も少し手掛けています。従業員には全ての作業を経験してもらい、将来に役立ててほしい。

所在地 〒669-3307
丹波市柏原町石戸14
電話 0795-70-5401
FAX 0795-70-5402
HP <https://iiyori-bokujo.com>
事業内容 肉用牛の生産・販売、
家畜飼料の販売
設立 2004年
資本金 300万円
売上高 7億8000万円
従業員数 5名



インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



丹波のおいしい水でおいしい和牛を育てる

丹波市

神戸高見牛牧場株式会社



私たちの思い

繁殖から肥育までを一貫して行い、「神戸高見牛(こうべたかみぎゅう)」というプライベートブランドで販売しています。グループ企業で直売所10店舗とレストラン2店舗を持ち、消費者に直接お届けします。

私たちのこだわり

産まれたて仔牛には免疫力を高めるため、独自に開発したミルクを与えます。成牛には独自の配合飼料を使い、旨みがあり健康に良い脂質となるよう工夫しています。

おもな産品

オリジナルブランド「神戸高見牛」を繁殖・肥育。食肉の加工・販売。仔牛用ミルクなどの販売。



オリジナルブランド牛「神戸高見牛」 生産から販売まで一貫経営

「神戸高見牛牧場(こうべたかみぎゅうぼくじょう)」は1982年に代表取締役の高見進さんが、自然豊かで水がおいしい丹波市市島町に牛舎を作り、80頭の牛の肥育を始めました。今では約1,200頭を繁殖から肥育まで一貫して行い、プライベートブランド「神戸高見牛(こうべたかみぎゅう)」として提供しています。生産される牛は、両親が但馬牛の純血但馬牛と、但馬系の黒毛和牛の2種類。厳しい審査をパスした神戸牛も含まれており、数々の受賞歴を誇ります。

牛肉とパイナップルの相性がいいからと、パイナップルの搾りかすを与えるなど、さまざまなノウハウを駆使して、おいしく健康に配慮した牛肉を提供しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



野澤 俊宏さん(33歳)

兵庫県立農業大学校出身。入社4年目の今は、繁殖を任せられ、哺乳から育成を担当しています。従業員の意見も取り上げてもらえるのが魅力。実家が養豚業なので、戻ったら牛も飼いたい。



日下部 満さん(30歳)

兵庫県立但馬農業高等学校を出て、入社して12年目です。繁殖牛の世話、仔牛が産まれたらうれしいですね。一貫経営の会社なのでいろいろな経験が積めるので、将来の糧になると思います。

INTERVIEW OF TOP



各地から研修生を受け入れ 畜産から営業までさまざまな仕事を経験

神戸高見牛牧場株式会社 代表取締役 高見 進さん

企業経営には人の根を張ることが大切だと思い、各地から研修生を受け入れています。牛の繁殖・肥育から直売店・レストランと多岐にわたる仕事を教えています。畜産から営業までいろいろな仕事を、従業員にも研修生にも覚えてほしい。

所在地 〒669-4332
丹波市市島町勅使1037-4
電話 0795-85-2914
FAX 0795-85-4060
HP <http://takamibeef.com/>
事業内容 畜産・食肉加工・販売・
飲食・牛用初乳販売・
その他農業に係る全般
設立 2015年
資本金 1000万円
売上高 6億円
従業員数 16名



インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



体にやさしいなた豆茶を丹波から世界へ

丹波市

有限会社 こやま園



私たちの思い

昔から丹波地方で一部民間薬用につくられていたなた豆を、なた豆茶として、加工販売。地元農家と連携し、自社農園で原料のなた豆を栽培。加工も自社工場で行う一貫生産です。

私たちのこだわり

乳幼児にも安心して与えられる、安全安心なものを提供したいと、有機農法にこだわり、なた豆を栽培。契約農家約50名が、我が社で決めた基準の有機栽培を行っています。

おもな作物

丹波なた豆を栽培、なた豆関連商品の開発・製造(丹波なた豆茶、サプリメント、パウダーなど)



丹波で古くから薬用使用されたなた豆茶を 丹波の新ブランドに、海外進出も積極的に

農家の十代目である小山伸洋さんは、ゼネコンの現場監督として働く傍ら、なた豆に着目し、その効能効果や食べ方、販売などの研究を始めました。有機栽培にこだわり、生産者グループ「有機豆本舗丹波」を2001年に設立し、なた豆の栽培と販売を開始。その評判が口コミで広がり、さらに2004年にテレビ番組に取り上げられてから、購入希望者が急増。2006年法人化し、「丹波なた豆」(2008年兵庫県認証食品ひょうご安心ブランド)を商標登録しました。

2012年の「香港Food Expo」出展以来、アメリカ、香港で販売を開始するなど、人脈を作って海外進出を積極的に行い、香港とベトナムに現地法人を設立し事業展開しています。

外観



働く人の

INTERVIEW



竹村 香澄さん(35歳)

JAで約8年間勤務し、出産を機に退職。子育てしながら農業に携わりたいと、こやま園に就職しました。インスタなどでなた豆の効用などを発信し、若いお母さんに情報を伝えたい。



小山 海さん(24歳)

調理師などの勉強をした後に就農し、今年で4年目。9月～11月はなた豆の栽培で、他の時期は営業として、海外のイベントにも出かけます。農業と営業の両方できるのが、おもしろい。

INTERVIEW OF TOP



農林水産省「ディスカバー農山漁村の宝」 特別賞に、大学との共同研究も進行中

有限会社 こやま園 代表取締役社長 小山 伸洋さん

なた豆を多角的に展開するため、海外を飛び回り、効能に関しては、大学と共同研究を進めています。輸出額は2014年から4年間で10倍に。2018年に農林水産省「第5回ディスカバー農山漁村の宝」の優良事例として選定され、特別賞を受賞しました。

所在地 〒669-4141
丹波市春日町黒井1972
電話 0795-74-2152
FAX 0795-74-0058
HP <http://www.kyme.jp/>
事業内容 丹波なた豆の栽培、
丹波なた豆茶の製造・販売
設立 2006年
資本金 300万円
売上高 1億3000万円
従業員数 9名



インターネット
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



丹波市

株式会社 竹岡農園



私たちの思い

日本の原風景が残る笛路村は中山間部に位置しています。耕作地が狭いので、農作物での生産に付加価値を付けようと、農家民宿(写真下)や農業体験、レストランなどの事業も展開しています。

私たちのこだわり

丹波市山南町谷川の山里・笛路村で、源流地域のきれいな水で農薬や化学肥料を使わず、独自の酵素で土づくりをし、野菜や丹波栗、丹波黒枝豆、丹波大納言小豆などを育てています。

おもな作物

露地野菜、丹波栗、丹波黒枝豆、丹波大納言小豆などを栽培しています。



農業に付加価値を付けたいと レストラン、民宿、酵素温熱風呂も運営

日本の原風景が残る里山で、農業を軸にレストラン、民宿、酵素温熱風呂を展開している「竹岡農園」。山間地の棚田で、農薬や化学肥料を使わずに野菜を栽培。源流地域の生活排水や塩素が混じらない水をまいて育てた野菜を「源流野菜」として、直接消費者に届けて、民宿やレストランでも提供しています。

2017年に始めた農家民宿では、菜食料理と里山の暮らしを味わえるほか、畑で農業体験もでき、企業研修や大学生のワークキャンプなどにも利用されています。米ぬかを多様な微生物で発酵させた酵素温熱風呂もあり、その酵素は、畑にまいて循環させています。

外観



働く人の

INTERVIEW



榎木 舞さん(31歳)

大阪で飲食業などを経験し、自然が好きで農業に興味があり、笛路村へ来ました。ここは村の人同士の繋がりが強いですね。農業とレストランのメニュー作りもしています。



高石 里佳子さん(20歳)

農業がしたくて、2018年6月に入社しました。土づくり、種まき、草刈りなどが毎日の作業です。自分で育てた野菜を民宿のお客さんに「おいしい」と言ってもらったときが、うれしい。

INTERVIEW OF TOP



里山を美しく保全していくために 価値を高め、魅力を発信

株式会社 竹岡農園 代表取締役 竹岡 正行さん

1ターンの農業を始めたのが2010年。2018年に法人化しました。民宿、レストランの開業に続き、NPO法人を立ち上げ、里山ようちえん「ふえっこ」(認定外)も始めました。里山を保全するため、総合的な価値を高め、魅力を発信していきます。

所在地	〒669-3131 丹波市山南町谷川2787-1
電話	0795-71-1240
FAX	0795-71-1240
HP	http://www.takeokafarm.com/
事業内容	農産物の生産・加工、農家民宿、 酵素温熱風呂、飲食事業
設立	2018年
資本金	200万円
売上高	1000万円
従業員数	4名





奥丹波の自然にやさしい農場でおいしい鶏卵を

丹波市

有限会社 たまごの郷



私たちの思い

空気と水がきれいな丹波の自然の中で、健康な鶏を育て、よい卵を提供したいと、茶色い羽毛のポリスブラウン種約6万羽を育てています。

私たちのこだわり

畜産GAPの認証を県内で初めて取得。徹底的に衛生管理された養鶏場で、県産飼料米に魚の煮汁を合わせた餌、ヨモギ粉、海藻などを与え、濃い味わいの卵を生産しています。

おもな産品

卵を自社ブランド「奥丹波の卵」として販売、7月からジェラート、鶏肉の製造・販売も開始しました。



2

2019年3月畜産GAPを県内で初めて認証取得 7月には高砂市にアンテナショップオープン

鶏卵の加工販売を手掛ける「株式会社 籠谷」(高砂市)の関連会社として、2000年に設立された「たまごの郷」。ポリスブラウン種約6万羽を育て、こだわりの飼料を使って、1日約4万5,000個のブランド卵「奥丹波の卵」を生産しています。

衛生管理・労働環境・飼養環境管理が評価され、2019年3月に畜産GAPを県内の養鶏場では初めて認証取得。同年7月から高砂市でアンテナショップ「yellow」をオープンし、卵を中心とした製品の直売を始めました。目玉商品は自慢の卵を使ったジェラート。丹波ブランドを近隣地区でアピールしています。

外観



働く人の

INTERVIEW



荒木 勇策さん(33歳)

兵庫県立氷上高等学校営農科で畜産を学び、最初は牛に携わりました。ここに入って約9年、鶏の飼育全般を任されています。出社したら一番に鶏舎を見回って、鶏の健康状態を丁寧に確認します。機械のトラブルがあれば補修などもします。牛から鶏と携わり、今では「この道に進んでよかった」と感じています。



INTERVIEW OF TOP



従業員の働く環境や地域への配慮を見直し 地域との繋がりを大切に

有限会社 たまごの郷 場長 小島 政徳さん

暑さが苦手な鶏への猛暑対策など、養鶏は日々勉強です。畜産GAP認証取得は、従業員の労働環境や周辺への配慮を考えるよい機会でした。

近隣の農家に発酵肥料を供給したり、地元小学校の社会学習受け入れを続け、地域との連携も大切にしたいですね。

所在地	〒669-3622 丹波市氷上町 三原151
電話・FAX	0795-82-2266
事業内容	鶏卵の製造販売
設立	2008年
資本金	300万円
売上高	1億9000万円
従業員数	10名



丹波市で有機野菜を生産、都市部で提供

丹波市

株式会社 パブリック・キッチン



私たちの思い

新たな6次産業化の仕組みを作りたいと、丹波市春日町で有機野菜をつくり、大阪・宝塚・丹波にある自社が運営するカフェレストランで提供しています。

私たちのこだわり

カフェメニューでは有機野菜を使うことにこだわり、有機野菜の栽培を始めました。有機JAS認証を取得しています。

おもな作物

露地とビニールハウスで常時20種類の野菜を有機栽培しています。年間を通すと、なす、トマト、かぼちゃ、こまつななど、約70種類になります。個別宅配も対応。



大

阪と宝塚・丹波でカフェレストラン4店舗展開 生産から提供までの一貫経営で無駄をなくす

「パブリック・キッチン」は丹波市春日地区の畑で有機野菜を栽培し、大阪で2店舗、宝塚・丹波で各1店舗運営するカフェレストランで提供しています。生産から提供までを一貫して手掛けて、流通ルートに乗せないため、少し傷があったり不揃いの野菜も使用でき、無駄がありません。

代表の山口圭司さんは30歳目前に、大阪で有機野菜のカフェレストランの会社を起業。仕入れ先を探すうちに丹波の農家と繋がりができ、就農しました。2011年「パブリック・キッチン」を設立し、2014年の農業参入をきっかけに丹波市に移住。農作業のIT化を進め、効率化することで経費を抑えました。今後は少しずつ畑を増やして、5年後にはカフェ10店舗を目指します。

外観



働く人の

INTERVIEW



富永 絵穂さん(21歳)

大阪市出身。高校の北海道修学旅行でファームステイを体験し、農業に興味を持ったのがきっかけで長野県農業大学校に進みました。2019年卒業し、4月から「パブリック・キッチン」で農業全般に携わるほか、カフェのスタッフとしても働いています。

有機農業をやってみたかったし、カフェで「有機野菜は味が濃くおいしい」とお客様の声が聞けるのも、励みになります。

INTERVIEW OF TOP



休みが取れ、子どもを養える収入で 若い世代が職業として選択する農業に

株式会社 パブリック・キッチン

代表者 山口 圭司さん

私たちがつくった農作物やサービスを、都市部の人たちにもっと提供していきたい。若い世代が農業を職業の選択肢の一つとすることが当たり前になるように、普通に休みが取れ、子どもを養えるだけの収入がある農業の仕事を増やしたいと思っています。

所在地 〒669-4132
丹波市春日町野村2032
電話 0795-74-0550
HP <https://pkp.co.jp/>
事業内容 有機農産物の生産・加工・販売、
直営店(カフェレストラン)運営
設立 2011年
資本金 1000万円
売上高 1億円
従業員数 15名





緑の山々と清流の里、霧深い青垣町でおいしい米づくり

丹波市

有限会社 まるきん農林



私たちの思い

安心でおいしいお米を消費者に届けたいとの思いで、中国山脈から湧き出る清流と、霧深い気候を生かして、米づくりをしています。

私たちのこだわり

化学肥料・農薬の使用を減らし健康な土壌づくりをして、おいしいお米を提供しています。1万袋対応の玄米低温倉庫があるため、集荷したお米を新鮮なまま年中供給できます。

おもな作物

水稻は丹波ひかみ米「コシヒカリ」「あいがもコシヒカリ」(有機JAS栽培米)、「ミルキークイン」、「夢ごこち」。ほかに丹波大納言小豆をつくっています。



社訓「人つくれ、土つくれ、米つくれ」を大切に チームワークで継続できる会社づくり

経営面積19.7haのうち15haが水稻と、米づくりに取り組む「まるきん農林」。恵まれた自然条件を生かして、丹波市青垣町ほか近隣の約60人の農家と「まるきんグループ」を作り、グループ全体約60haで栽培基準を揃えた「丹波ひかみ米」をつくっています。

父親に続く二代目の堀 謙吾さんは、社訓「人つくれ、土つくれ、米つくれ」を大切に、家族経営から「入ってよかったと思われる会社」と法人化。さらにJ-GAP認証取得を目指し、従業員の資格取得、労働環境改善にも取り組みます。新品・中古農業機械販売・修理と経営の多角化も進めています。



外観



働く人の

INTERVIEW



足立 雅典さん(24歳)

大学農学部を退学して地元に戻り、2018年3月に入社しました。専門が農業土木だったのですが、実際は作物を育てることをしたかった。今は毎日が勉強。ほ場での作業は、一つひとつの作業の役割を理解するよう心がけています。農業はきついというイメージがありますが、休みもきちんとあり、ありがたいです。

INTERVIEW OF TOP



大切にしたい“丹波ブランド” 地域農業者全体の盛り上げが必要

有限会社 まるきん農林 代表取締役 堀 謙吾さん

2018年に社長になり、企業を発展存続させるのが役目と思い、「1年1社新規顧客開拓」と営業もがんばっています。丹波ブランドを盛り上げるためには農業者全体の盛り上がりが必要。私も地域のための活動に積極的に取り組んでいます。

所在地 〒669-3834
丹波市青垣町中佐治735-1
電話 0795-88-0230
FAX 0795-80-6500
HP <http://www.marukin1.com>
事業内容 農産物の製造・販売、
作業受託、
新品・中古農機販売・修理
設立 2002年
資本金 500万円
売上高 1億円
従業員数 5名



インターンシップ

随時受け付け。詳細は問い合わせを。



丹波市

有限会社 ワタミファーム 丹波農場



私たちの思い

ワタミグループの外食事業に「より安全・安心なものを届けたい」と、有機農業に取り組んでいます。全国に展開する農場から新鮮でおいしい野菜を供給しています。

私たちのこだわり

地域に根差した循環型社会を創造し、豊かなライフスタイルに貢献できることを目指して、有機農業を積極的に推進しています。

おもな作物

レタス、だいこん、たまねぎ、にんにくなどを栽培しています。



地域に根差した有機栽培を全国で展開 丹波エリアの6次産業化モデルの取り組みも

地域に根差した有機農業を全国で発展させようと、「ワタミファーム」は2001年に設立。現在は全国11カ所で農場・牧場を展開しています。丹波農場は2013年から「ワタミ手づくり厨房」丹波センターに併設し、営農を始めました。当初0.5haだった畑が今は7倍の3.5haに。主要作物であるたまねぎの一次処理（皮むき）を自社で行い、新鮮な農作物の価値を高めてグループ会社に供給しています。このたまねぎの外皮やセンターで出る野菜残渣、近隣の市島町南自治会の森の木材チップなどを堆肥化し肥料に。間伐材は農場の看板などで使用するなど、丹波エリアの6次産業モデルに取り組んでいます。



外観



働く人の

INTERVIEW



北村 誠浩さん(34歳)

企業が取り組んでいる農業に興味があったので、ワタミグループに2010年に入社しました。居酒屋や工場でも働き、今農場で3年目です。大学では生物学を専攻。食料をつくる仕組みを知り、自分でつくれるようになりたいと、農業を希望しました。今の仕事は、農場運営全般です。農業は毎年変わる気候が相手で、日々が勉強です。起きてしまった現象に対して、次はどう手を打つか。予測通りにうまくいくと達成感があり、おもしろいですね。

INTERVIEW OF TOP



黒にんにくなどの商品化 製造過程で森林間伐材の利用も

有限会社 ワタミファーム

取締役

丹波農場・京丹後農場 農場長

部谷 文一さん

丹波農場独自の取り組みとして、黒にんにくの商品化に力を入れています。にんにくを乾燥するときには、近隣の森の間伐材を利用して、エネルギーの循環の一役を担っています。有機農業者グループとの連携など、地域との繋がりを大切にしています。

所在地	〒669-4314 丹波市市島町南1105-1
電話	0795-80-3011
FAX	0795-80-3010
HP	http://www.watamifarm.co.jp/
事業内容	野菜、加工品の生産、販売など
設立	2013年
資本金	300万円
売上高	5560万円
従業員数	14名





丹波篠山の魅力とおいしさを世界へ伝えたい

丹波篠山市

株式会社 アグリヘルシーファーム



私たちの思い

美しい自然に囲まれた丹波篠山でしかつけない農作物を自分たちの手でつくり、食を通じて丹波篠山の魅力とおいしさを世界中に伝えていきたいと考えています。

私たちのこだわり

肥料を控えめにして、おいしいお米・黒大豆をつくっています。少量多品目の野菜は、基本的に農薬・化学肥料を使わず、土中のミネラルなどを吸収させ、濃厚な味わいに育てます。

おもな作物

丹波篠山米、丹波黒大豆、丹波黒枝豆、丹波篠山野菜など。



Web、直売所、高速道路SAなど販売力に強み 安心・安全でおいしい農作物を食卓へ

昼夜の寒暖差が大きな丹波篠山。「アグリヘルシーファーム」はこの地で家族経営型農業を営んでいた、現代表・原智宏さんの父親が2001年、法人化しました。

丹波篠山でしかつけない農作物にこだわる同社は、「東の新潟魚沼、西の丹波篠山」と評価を受けるほどの丹波篠山米コシヒカリや、名産の黒大豆、季節の野菜を栽培。牛ふん堆肥を使用し、化学肥料・農薬は極力使わず、ミネラル分を豊富に含んだ水と土壌の力でおいしい農作物を育てます。ショッピングしやすいホームページをはじめ、地元の直売所、高速道路SAなど、消費者に直接届けられることができる販売力も魅力です。

外観



働く人のINTERVIEW



庄司 一真さん(28歳)

兵庫県立播磨農業高等学校から兵庫県立農業大学校へ進学し、2013年に入社。主任として水稻と黒大豆の管理、オペレーター作業を中心に日々奮闘しています。

最近は部下も増え、作業の指導やそのやり方についてコミュニケーションを密にとったりして、社内が円滑に回るように意識しています。

INTERVIEW OF TOP



父から誘われて就農、農業経営へ 地域での活動も糧に

株式会社 アグリヘルシーファーム代表 原 智宏さん

大学在学中、父親から「大規模農業に転換するから」と誘われたのがきっかけで、就農しました。5年後に父が病に倒れ、代表に。チャレンジ精神をいつも持ち、地域の活動や勉強会に積極的に参加し、農業経営の糧にしています。

所在地 〒669-2223
丹波篠山市味間奥1313
電話 079-506-2794
FAX 079-594-5655
HP <https://agri-hf.jp/>
事業内容 水稻、黒大豆、野菜の生産、販売など
設立 2001年
資本金 300万円
売上高 1億2000万円
従業員数 10名



インターンシップ
通える範囲で受け入れ可能。詳細は問い合わせを。



丹波篠山ブランドの米と豆を中心に栽培

丹波篠山市

株式会社 丹波篠山大内農場



私たちの思い

昼夜の気温の寒暖差が大きい気象条件と、消費地に近いという、恵まれた立地条件の丹波篠山市で、先人が築いた丹波篠山ブランドの米と豆を中心に農業経営を行っています。

私たちのこだわり

今田町のきれいな水を生かし、畜産農家とも連携して土づくりを行い、安心でおいしい米と豆をつくっています。とくに丹波篠山コシヒカリと丹波篠山黒豆を中心に栽培しています。

おもな作物

丹波篠山コシヒカリ、丹波篠山黒豆、丹波篠山黒枝豆



生産・加工から販売まで、観光農園の経営も畜産農家と連携しての循環型農業

「丹波篠山大内農場」は、丹波篠山の農業に適した気候ときれいな水を生かし、丹波篠山コシヒカリと丹波篠山黒豆（丹波篠山黒枝豆）を中心に栽培。畜産農家と連携して、稲わらを牛の餌にし、牛ふん堆肥で土づくりをする、循環型農業を行っています。農産物だけでなく、酒米（さかまい）からつくりだす日本酒などの加工品の生産販売にも力を入れています。

2007年からは黒大豆枝豆狩りができる観光農園を開設。収穫期の10月には、舞鶴自動車道丹波篠山口インターから約20分の好立地もあって、毎年2万人が来園するほどの人気です。観光農園では新米の直売も行っています。

外観



働く人の

INTERVIEW



眞継 明宏さん(31歳)

2018年9月からこの会社で働き、2019年3月正社員になったばかりで、今は農作業を覚えているところです。耕作放棄地が増えている今、日本の原風景を保てるよう、がんばりたい。



上田 浩一さん(47歳)

ボランティアから就農。地域の基幹農家での仕事は、勉強することばかりです。観光農園の枝豆収穫は、丹波篠山ブランドを守るためにもお客さんに良い印象を持ってもらえるようがんばります。

INTERVIEW OF TOP



年中通じて栽培できる作物の導入を検討地域の農業者と連携

株式会社 丹波篠山大内農場 代表取締役社長 大内 正博さん

米と豆を基幹に、年間を通じて栽培できる作物の導入や、観光農園も年間営業など、課題解決のための構想を考えています。今田町の有志農家で行っているにんにくの栽培など、農業者で連携し、地域活性化にも積極的に取り組んでいきたい。

所在地 〒669-2163
丹波篠山市今田町本庄395
電話 079-597-2517
FAX 079-597-3519
HP <http://oouchi-farm.com/>
事業内容 農業生産・作業受託・観光農園
設立 2008年
資本金 150万円
売上高 1億円
従業員数 9名



インターンシップ

通える範囲で受け入れ可能。詳細は問い合わせを。



洲本市

小山田村農場 株式会社チューリップハウス農園



私たちの思い

先人たちが切り開いてくれた中山間地の農業を守り、持続的に発展させることが目標です。社員の生活が安定し、向上することが地域を活性化させることにつながると考えています。

私たちのこだわり

農業関係のほか、異業種交流によって違った角度からの考え方や意見を取り入れ、経営に反映させています。今後は作付状況などが把握できる管理システム「スマートアシスト」を導入し、生産を進化させていきます。

おもな作物

米年間4t、たまねぎ年間70t、他にブロッコリー、はくさい、キャベツ、ピーマン、万願寺ししとう、なす、かぼちゃ、にんじんをJAや青果会社、市場、スーパー、レストランなどへ出荷。



外観



「農」から「食」まで幅広く手がけ 村の発展に貢献する若き農業人たち

洲本市五色町の小山に囲まれた中山間地に「小山田村農場 株式会社チューリップハウス農園」があります。「村のおじいちゃん、おばあちゃんから農業を教えてもらった」と語る高詒雅秀代表は、村を活性化させたいという思いで、昔は朝廷に献上していたという「鮎原米（キヌヒカリ）」を中心に、米1ha、野菜3haを特別栽培しています。敷地内の農園レストラン「夢蔵」では、フランスの三ツ星レストランで修業したシェフが、採れたて野菜を使ってイタリアンやフレンチを提供。有機たまねぎたっぷりカレーやはっさくサイダー、季節のジャム、ドレッシングなどの加工品を観光施設で販売するなど、農業を核とした6次産業で、その名を広めています。

働く人のINTERVIEW



井手 康介さん(29歳)

広島県の普通科高校生だった頃、当時の先生が高詒代表を紹介してくれて淡路島へ。設立当初から約10年間働いています。さまざまな作物の栽培と神戸・新開地にある直売所で週2回店長を任せてもらっています。消費者と会話し、ふれ合うことで人気の野菜や改善点に気が付いたりできるのがプラスになっています。

所在地	〒656-1317 洲本市五色町鮎原小山田89
電話	0799-30-2260
FAX	0799-30-2262
HP	http://www.tulipfarm.co.jp
事業内容	農産物の生産、加工、販売、 企画、レストラン事業
設立	2010年
資本金	2100万円
売上高	農業部門2000万円
従業員数	2名(役員1名・正社員1名)、 パート1名

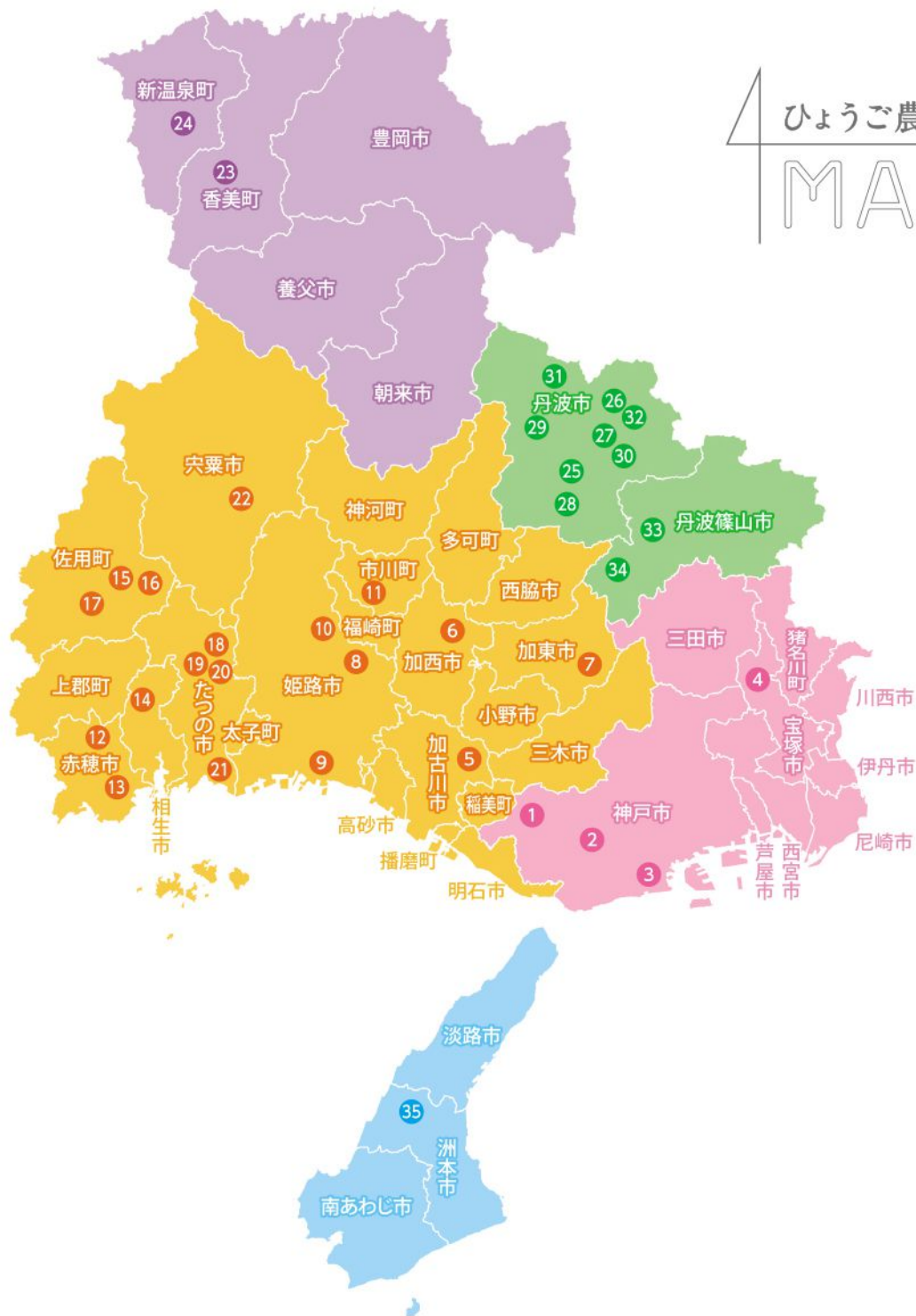
INTERVIEW OF TOP



新しい農業のカタチを 常に模索しています

小山田村農場 株式会社チューリップハウス農園 代表取締役社長 高詒 雅秀さん

農業の将来を見据えて、農業法人の新しい姿を創造していきたいと思っています。栽培面積を広げていくのはもちろんのことながら、社員の負担を増やさないよう作業効率を改善するなど、働き方改革も考えています。農業にしっかり軸足を置きながら、島内外の人々にアピールできる魅力ある商品を開発し、6次産業の分野をもっと伸ばしていきたいです。



摂津

- ① 神戸市西区 株式会社 近藤農産
- ② 神戸市西区 中野ファーム 株式会社リアルエステート中野
- ③ 神戸市長田区 特定非営利活動法人 わだち
- ④ 宝塚市 株式会社 王珠

播磨

- ⑤ 加古川市 農事組合法人 八幡宮農組合
- ⑥ 加西市 株式会社 中塚農園
- ⑦ 加東市 株式会社 こうせつ・たなか
- ⑧ 姫路市 株式会社 香寺ハーブ・ガーデン
- ⑨ 姫路市 児島園芸有限会社
- ⑩ 姫路市 有限会社 村上ポーターリー
- ⑪ 神崎郡市川町 有限会社 環境微生物研究所
- ⑫ 赤穂市 株式会社 デイリーエッグ

- ⑬ 赤穂市 有限会社 米ログリーンナーセリー
- ⑭ 相生市 株式会社 百姓
- ⑮ 佐用郡佐用町 東徳久地区農事組合法人
- ⑯ 佐用郡佐用町 株式会社 みかづきe
- ⑰ 佐用郡佐用町 株式会社 山本営農
- ⑱ たつの市 株式会社 ささ営農
- ⑲ たつの市 株式会社 J McCoy
- ⑳ たつの市 有限会社 新宮ファーム
- ㉑ たつの市 株式会社 博農
- ㉒ 宍粟市 一般財団法人 宍粟北みどり農林公社

但馬

- ㉓ 美方郡香美町 株式会社 上田畜産
- ㉔ 美方郡新温泉町 株式会社 湯村温泉愛宕山観光

丹波

- ㉕ 丹波市 有限会社 井寄牧場
- ㉖ 丹波市 神戸高見牛牧場株式会社
- ㉗ 丹波市 有限会社 こやま園
- ㉘ 丹波市 株式会社 竹岡農園
- ㉙ 丹波市 有限会社 たまごの郷
- ㉚ 丹波市 株式会社 パブリック・キッチン
- ㉛ 丹波市 有限会社 まるきん農林
- ㉜ 丹波市 有限会社 ワタミファーム 丹波農場
- ㉝ 丹波篠山市 株式会社 アグリヘルシーファーム
- ㉞ 丹波篠山市 株式会社 丹波篠山大内農場

淡路

- ㉟ 洲本市 小山田村農場 株式会社チューリップハウス農園

